

高原町文化財報告書第26集

楠木塚遺跡

畑地帯総合整備事業における埋蔵文化財発掘調査報告書(9)

2022年3月

宮崎県西諸県郡
高原町教育委員会

序 文

本書は、「県営畑地帯総合整備事業（担手支援）に伴い、宮崎県西諸県農林振興局から委託を受け、高原町教育委員会が行った楠木塚遺跡発掘調査の調査報告書です。

高原町は霊峰高千穂峰をいただく、神話と歴史に溢れた町です。特に「高原」という地名は、「高天原」から転化したと言われており、町内各所に神話にまつわる地名が残されています。高原町は初代天皇である神武天皇の御降誕地であり、また若年期に過ごされたという伝承をもつ場所としても名高い町であります。

高原町教育委員会では、畑地帯総合整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査を平成27年度から実施しており、令和元年度に実施したこの楠木塚遺跡の調査においては、縄文時代早期の遺物・遺構が中心に見つかっています。

今回の調査で得た様々な成果が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待しています。

最後になりますが、この発掘調査及び整理作業にあたり、多大なる御理解と御協力をいただきました、土地所有者の方や周辺住民の方々をはじめ、御指導・御援助をいただきました関係諸機関の方々に心から御礼を申し上げます。

令和4年3月

高原町教育委員会
教育長 西田 次良

例 言

- 1 本報告書は、令和元年度に実施した後川内地区における平成30年度畑地帯総合整備事業（担手育成）に伴う楠木塚遺跡発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡は宮崎県西諸県郡高原町大字後川内字楠木塚に所在する。
- 3 当遺跡の発掘調査及び報告書作成のための整理作業、執筆については宮崎県西諸県農林振興局農村整備課の委託を受けて、高原町教育委員会が主体となって実施した。
- 4 当遺跡の発掘調査については、宮崎県教育委員会文化財課の指導・助言を受けて、高原町教育委員会教育総務課社会教育係の玉谷鮎美及び発掘調査員の竹中美智子が担当した。発掘調査は令和元年6月12日から令和2年3月30日まで実施した。
- 5 現場における遺構実測は調査員及び作業員が行った。なお、遺構実測図の一部を有限会社ジパング・サーベイに委託した。
- 6 遺物の整理、実測図作成、トレースについては、調査員、調査補助員、作業員が整理作業室にて行った。遺物の実測図作成及びトレースの一部を有限会社ジパング・サーベイに委託した。
- 7 本報告書で使用した遺物、遺構の写真撮影は玉谷、竹中で行い、空中写真については九州航空株式会社に委託した。
- 8 本報告書で使用した出土炭化物の放射線炭素年代測定、樹種同定、種実同定、およびテフラ分析は株式会社古環境研究所に委託した。
- 9 本報告書で用いた標高は海拔高であり、方位はすべて真北である。
- 10 本報告書で使用した遺構記号は以下の通りである。
SI…集石遺構 SC…土坑 P…ピット
- 11 本報告書の執筆・編集は玉谷が行った。
- 12 発掘調査に伴って出土遺物とすべての記録については、高原町教育委員会で保管している。
- 13 発掘調査および報告書作成においては下記の方々に御指導、御助言いただきました。記して御礼申し上げます。
秋成雅博、栞畑光博、松本 茂、吉本正典（50音順）

本文目次

第1章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査組織	2
第3節 遺跡の立地と環境	3
第4節 調査の概要及び経過	3
第5節 遺跡の層序	6
第2章 アカホヤ火山灰下位の調査	8
第1節 遺物、遺構の分布状況	8
第2節 遺構について	8
第3節 遺物について	24
第3章 アカホヤ火山灰上位の調査	36
第1節 遺物、遺構の分布状況	36
第2節 遺構について	36
第4章 自然科学分析	39
第5章 まとめ	62

挿図目次

図 1	周辺遺跡分布図	4
図 2	調査地位置図	4
図 3	グリッド配置図	5
図 4	基本層序	6
図 5	調査区土層断面図	7
図 6	アカホヤ火山灰下位遺構配置図	9
図 7	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図①	10
図 8	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図②	11
図 9	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図③	12
図 10	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図④	13
図 11	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑤	14
図 12	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑥	15
図 13	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑦	16
図 14	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑧	17
図 15	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑨	18
図 16	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図①	19
図 17	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図②	20
図 18	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図③	21
図 19	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図④	22
図 20	アカホヤ火山灰下位検出ピット実測図	23
図 21	アカホヤ火山灰下位出土土器分布図	24
図 22	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図①	25
図 23	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図②	26
図 24	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図③	27
図 25	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図④	28
図 26	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図⑤	29
図 27	アカホヤ火山灰下位出土石器実測図①	30
図 28	アカホヤ火山灰下位出土石器実測図②	31
図 29	アカホヤ火山灰下位出土石器実測図③	32
図 30	アカホヤ火山灰下位出土石器実測図④	33
図 31	アカホヤ火山灰上位遺構配置図	36
図 32	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図①	37
図 33	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図②及び P 実測図	38

表目次

表 1	アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土石器観察表	23
表 2	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器観察表	34
表 3	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器観察表	35

図版目次

図版 1	調査区空中写真	63
図版 2	調査区土層写真	64
図版 3	アカホヤ火山灰下位遺構写真①	65
図版 4	アカホヤ火山灰下位遺構写真②	66
図版 5	アカホヤ火山灰下位遺構写真③	67
図版 6	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真①	68
図版 7	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真②	69
図版 8	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真③	70
図版 9	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真④	71
図版 10	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑤	72
図版 11	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑥	73
図版 12	アカホヤ火山灰上位遺構・遺物写真	74
図版 13	調査状況等写真	75

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯

宮崎県西諸県郡高原町大字後川内では、平成25年度に後川内1期地区楠木塚団地畑地帯総合整備（担手支援）事業が採択された。工事に伴い宮崎県文化財課は宮崎県西諸県農林振興局から文化財の所在の有無について照会を受けた。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていなかったが、県文化財課が一带の試掘調査を実施したところ、事業実施計画によって切土となる範囲が未周知の埋蔵文化財包蔵地であり、発掘調査が必要であることが分かった。

その結果を受け、西諸県農林振興局、宮崎県文化財課、高原町農政畜産課、高原町教育委員会で協議を行い、令和元年度には事業実施計画によって切土となり削平される新規遺跡「楠木塚遺跡」の約5,000㎡について記録保存のための発掘調査を実施した。調査期間は令和元年6月12日から令和2年3月30日までである。

第2節 調査組織

調査組織については下記の通りである。

平成31年 / 令和元年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田次良

教育総務課長 水町洋明

社会教育係長 江田雅宏

社会教育係 主任主事 中別府宏貴（庶務担当）

主事 瀬戸口洋介（庶務担当）

調査担当者 社会教育係 主任主事 玉谷鮎美

社会教育係 非常勤職員（発掘調査員） 竹中美智子

調査補助員 田中祐紀 福田 稔

発掘作業員 安藤 護 飯田千代子 池崎良夫 池田信子 石ヶ野敏郎 入木松男

内村絹代 大田滝子 岡崎順子 岡原 弘 奥 喜代司 勝吉末雄

上村勝雄 上村恭子 久德利雄 窪田貴代子 黒木和美 下村富貴子

正入木政喜 鈴木睦子 關田克己 瀬戸口長経 平良 廣

竹之下民子 田崎広海 谷山龍人 鶴田孝徳 寺師時信 泊 かよ子

永田輝昭 那須町子 鳴海フヂエ 橋口廣海 原田賢雄 眞方幸雄

松本タケ子 丸山修平 村山保夫 安岡健二 柳 桂子 山崎啓子

山下浩美 山田町子 山室つゆ子 湯舟玲子 吉村 繁

整理作業員 荒殿ミユキ 今西公実 梅本かよ子 瀬戸山美子 福田 稔

令和2年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田次良

教育総務課長 末永恵治

教育総務課 課長補佐兼社会教育係長 江田雅宏

社会教育係 主任主事 中別府宏貴（庶務担当）
調査担当者 社会教育係 主査 玉谷鮎美
調査補助員 福田 稔
整理作業員 荒殿ミユキ 今西公実 梅本かよ子 瀬戸山美子 矢野秀城

令和3年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会
教育長 西田次良
教育総務課長 末永恵治
教育総務課 文化財係長 山下浩樹
文化財係 主査 玉谷鮎美（庶務担当）
調査担当者 文化財係 主査 玉谷鮎美

調査指導 藤木 聡 （宮崎県文化財課）

調査協力 事業側 宮崎県西諸県郡農林振興局
農村整備課 農村整備担当 主査 上坂大輔（令和元年度）
主査 蛭原稔文（令和2・3年度）
高原町農畜産振興課（令和元・2年度）
課長 田中博幸（令和元・2年度）
農村整備係長 増田仁志（令和元年度）
田中伸一郎（令和2年度）
農村整備係 主査 下村健一（令和元・2年度）
主査 東 一樹（令和3年度）
地権者 岡元昭博
地域協力 若松初男 西村正人

第3節 遺跡の立地と環境

高原町は宮崎県の南西部に位置し、小林市、都城市、鹿児島県霧島市に隣接している。東西約18km、南北約10kmと東西に長く、面積は85.39km²であり、韓国岳（標高1,700m）、新燃岳（1,421m）、中岳（1,332m）、高千穂峰（1,574m）等を中心とする霧島火山群の東麓にある。高原町の台地は火山灰により形成されたシラス台地上にある。シラスは約29,000年前に現在の鹿児島県の錦江湾付近（始良カルデラ）から噴出した火山灰で「始良丹沢（AT）火山灰」「始良大隅軽石」「入戸火砕流堆積物」等で構成されており、その堆積は厚いところでは約20mにもなる。さらにその後も、霧島火山群から多種の火山灰が噴出し、霧島小林軽石、牛のすねローム下部、鬼界アカホヤ火山灰、牛のすねローム上部、御池軽石、高原スコリア（霧島大谷4～6テフラ）等が降下しており、高原町を覆っている。これらの火山灰は地層の年代を特定するための鍵層となっている。

遺跡周辺も入戸火砕流が堆積した台地上に立地しており、南側には炭床川が流れている。調査区の東側は住宅地、西側は畑になっており、造成による削平を受けている。北側は竹林で、調査区よりやや高い標高であり、この部分については造成前の旧地形をある程度残していると推測される。今回調査を実施した調査地も、畑地となっており、造成により、アカホヤ火山灰上位層はほとんどが削平を受け残存していなかった。アカホヤ火山灰下位層は良好に残存しており、当該層を中心に調査を実施した。

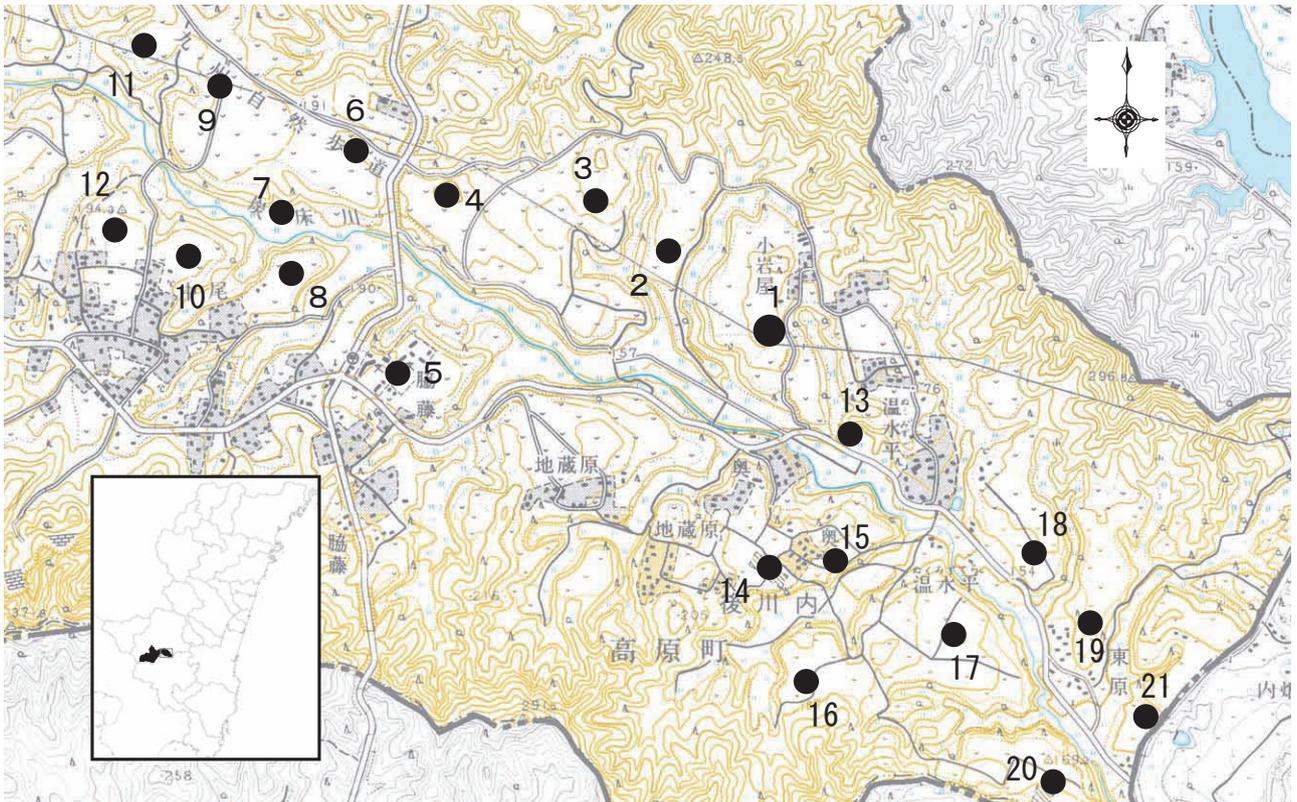
遺跡周辺には多くの遺跡が存在し、立切地下式横穴墓群、川除遺跡、川路山遺跡、井ノ原遺跡で発掘調査が行われた。後川内小学校屋内運動場建設に伴い調査された川除遺跡は、古代の畝状遺構等が見つかった。縄文時代の遺物も少量ではあるが見つかっており、姫島産黒曜石やチャートの石鏃、轟B式土器が出土している。また川路山遺跡では塞ノ神式土器を中心とした土器が出土しており、集石遺構等が検出された。井ノ原遺跡では平碇式土器を中心とした土器や異形石器が出土し、竪穴遺構、集石遺構等が検出された。

第4節 調査の概要及び経過

工事設計により、アカホヤ火山灰下位まで工事削平されることとなっていたため、発掘調査はアカホヤ火山灰の上位と下位で実施した。調査の経過は6月12日から重機作業を実施し、アカホヤ火山灰上位の調査を令和元年7月18日から8月29日まで実施した。当面については削平及び耕作時のトレンチャーで、遺物包含層残存範囲が調査区際から幅2mほどと狭小であったため、重機で慎重に掘り下げながら、遺物採取、遺構検出を実施した。精査と併行して、精査が完了した調査区中央付近からアカホヤ火山灰の除去を行った。アカホヤ火山灰下位の遺物包含層については調査区全面に残存していたため、令和元年7月31日から令和2年3月30日にかけて調査を実施した。7～11グリッドから調査を実施し、続いて1～6グリッドと11～14グリッドの調査を併行して実施した。また令和2年1月28日に生涯学習講座を実施した。

調査の結果、アカホヤ火山灰上位層では、土坑3基とピット1基、アカホヤ火山灰下位層では集石遺構14基、陥し穴状遺構3基、土坑1基、ピット8基を検出した。主な出土土器は、成川式土器、縄文土器では前平式、下剥峰式、塞ノ神式である。主な出土石器は鏃である。

調査における写真撮影については35mmモノクロ・リバーサルフィルム、NIKON D850で撮影を行った。



- 1 楠木塚遺跡 2 赤木八重遺跡 3 井ノ原遺跡 4 川路山遺跡 5 川除遺跡 6 轟遺跡 7 向原第1遺跡 8 宮ノ谷遺跡
 9 立切地下式横穴墓群 10 向原第2遺跡 11 立切第1遺跡 12 向原第3遺跡 13 温水第2遺跡 14 奥城跡 15 温水第1遺跡
 16 久保田第2遺跡 17 久保田第1遺跡 18 東平遺跡 19 東原遺跡 20 土橋遺跡 21 吉牟田遺跡

第1図 周辺遺跡分布図



第2図 調査地位置図

第5節 遺跡の層序

楠木塚遺跡では、アカホヤ火山灰より上の層は削平によりほとんど残っていないが、調査区内で最も地層が連続して残っている箇所を基本層序（第4図）とした。

I 黒褐色粘質土で表土(耕作土)にあたる。IIにぶい黄褐色シルト質土で20mm以下のにぶい黄褐色軽石、3mm以下の黒色軽石を多く含む。高原スコリアに当たる。III～Vは黒褐色シルト質土でIIIはしまりが緩く、縄文時代前期以降の遺物包含層である。VIは黄褐色シルト質土で、VII暗灰黄シルト質土で牛のすね火山灰上部層である。VIIIは黄褐色シルト質土でアカホヤ火山灰層、IXは灰黄褐色シルト質土に黄褐色軽石を多く含むアカホヤ火山灰豆石層である。Xは褐灰色シルト質土で牛のすね火山灰下部層である。XIは黒色シルト質土でかたく絞まりがある層である。XIIからXIVは、黒褐色粘質土でXIIは黄褐色、橙色軽石を多く含む。XVは暗褐色粘質土でXVIはにぶい黄褐色粘質土である。XVII黄褐色粘質土で橙色、黄褐色軽石を少量含む、粘性がやや高い。XVIIIにぶい黄褐色シルト質土15mm以下の黄褐色軽石、1mm以下の白色粒を多く含む。XIX黄褐色シルト質土30mm以下の黄褐色軽石や1mm以下の白色粒、2mm以下の白色砂粒を多量に含む、固く絞まる。XXからXXIIIは黄褐色砂質土と灰黄褐色砂質土で小林軽石層である。XXIVはにぶい黄褐色粘質土で黄褐色軽石と黄褐色軽石を少量含む。XXVは明黄褐色粘質土で黄褐色軽石を少量含む。褐灰色の斑点があり、粘性が強い。調査はVI層上での遺構検出と、XII～XIV層の遺物包含層調査、遺構検出を行った。

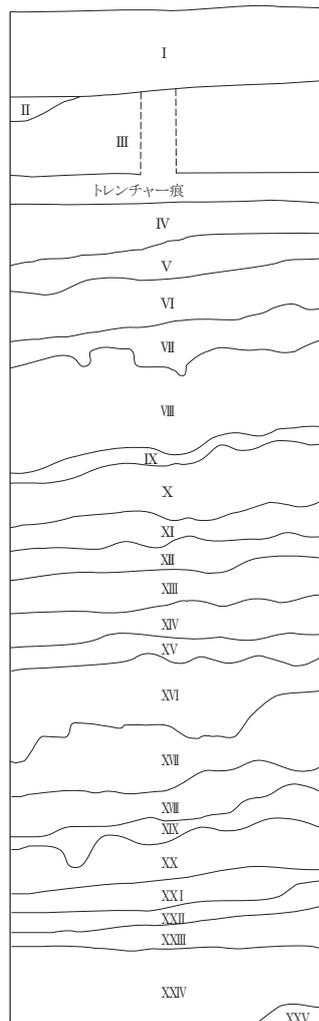
197.000m

196.000m

195.000m

194.000m

193.000m

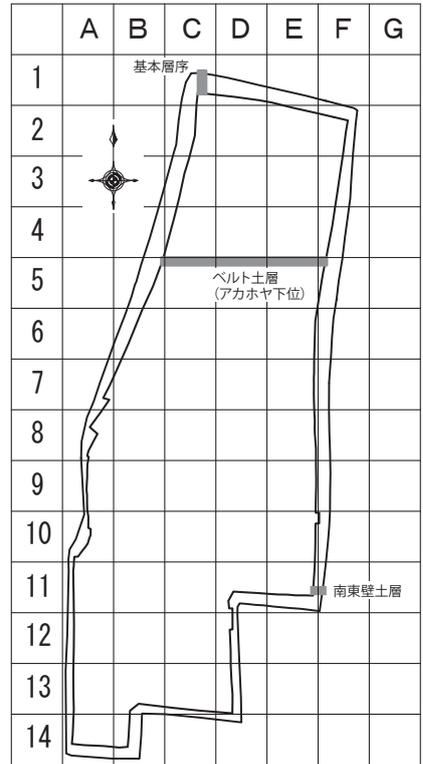
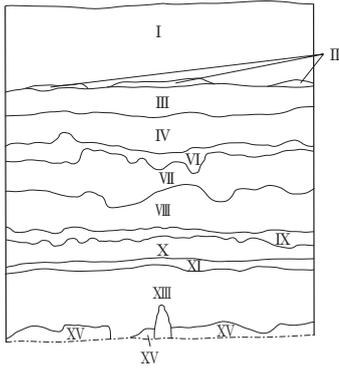


- I 黒褐色粘質土 (2.5YR3/1) 10 mm以下の白色、褐色砂粒を多く含む
- II にぶい黄褐色シルト質土 (10YR4/3) 20 mm以下のにぶい黄褐色軽石、3 mm以下の黒色軽石を多く含む。しまりなし
- III 黒褐色シルト質土 (2.5YR3/2) 1 mm以下の白色粒を含む。しまりゆるい
- IV 黒色シルト質土 (10YR2/1) 3 mm以下の橙色軽石を含む。1 mm以下の白色粒を含む
- V 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 3 mm以下の橙色軽石を含む。1 mm以下の白色粒を含む。しまりあり
- VI 黄褐色シルト質土 (2.5YR5/4) 15 mm以下の橙色軽石を多く含む。しまりあり
- VII 暗灰黄シルト質土 (2.5YR5/2) 10 mm以下の橙色軽石を含む。1 mm以下の白色粒を含む。かたくしめる
- VIII 黄褐色シルト質土 (10YR7/8) 黄褐色パミス。ややしまりあり
- IX 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 黄褐色軽石 (アカホヤ火山灰豆石 15 mm以下) を多く含む。かたくしめる
- X 褐灰色シルト質土 (10YR5/1) 2 mm以下の橙色軽石、1 mm以下の白色粒を微量含む。かたくしめる
- XI 黒色シルト質土 (10YR2/1) 1 mm以下の白色粒を含む。かたくしめる
- XII 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 8 mm以下の黄褐色、橙色軽石を多く含む。1 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を含む。しまりあり
- XIII 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 10 mm以下の黄褐色、橙色軽石を多く含む。1 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を多く含む。しまりありだが、XIIよりやややわらかい
- XIV 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 8 mm以下の黄褐色、橙色軽石を多く含む。1 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を多量に含む。しまりあり
- XV 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 10 mm以下の黄褐色、軽石を含む。3 mm以下の橙色軽石を含む。1 mm以下の白色粒を多く含む。ややしまりあり
- XVI にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) 2 mm以下の黄褐色軽石を少量含む。1 mm以下の白色粒を含む。ややしまりあり。粘性がやや高い
- XVII 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 8 mm以下の橙色、黄褐色軽石を少量含む。1 mm以下の白色粒を多く含む。しまりあり
- XVIII にぶい黄褐色シルト質土 (10YR6/4) 15 mm以下の黄褐色軽石を多量に含む。1 mm以下の白色粒を多量に含む。2 mm以下の白色砂粒を多量に含む。かたくしめる
- XIX 黄褐色シルト質土 (10YR8/8) 30 mm以下の黄褐色軽石を多量に含む。しまりなし
- XX 黄褐色砂質土 (10YR8/8) 5 mm以下の黄褐色軽石、1 mm以下の黒褐色砂粒を多量に含む。しまりなし
- XXI 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 8 mm以下の黄褐色軽石、1 mm以下の灰黄褐色砂粒、1 mm以下の白色砂粒を多く含む
- XXII 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 30 mm以下の黄褐色軽石 1 mm以下の白色砂粒、3 mm以下の白色砂粒を多く含む
- XXIII にぶい黄褐色粘質土 (10YR6/3) 5 mm以下の黄褐色軽石を含む。3 mm以下の白色砂粒、2 mm以下の白色砂粒を多く含む。しまり、粘性あり
- XXIV にぶい黄褐色粘質土 (10YR6/4) 10 mm以下の黄褐色軽石を含む。5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む。3 mm以下の灰白色砂粒を多く含む。しまり、粘性あり
- XXV 明黄褐色粘質土 (10YR6/6) 5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む。3 mm以下の灰白色砂粒を少量含む。しまりあり。褐灰色の斑点状あり粘性あり

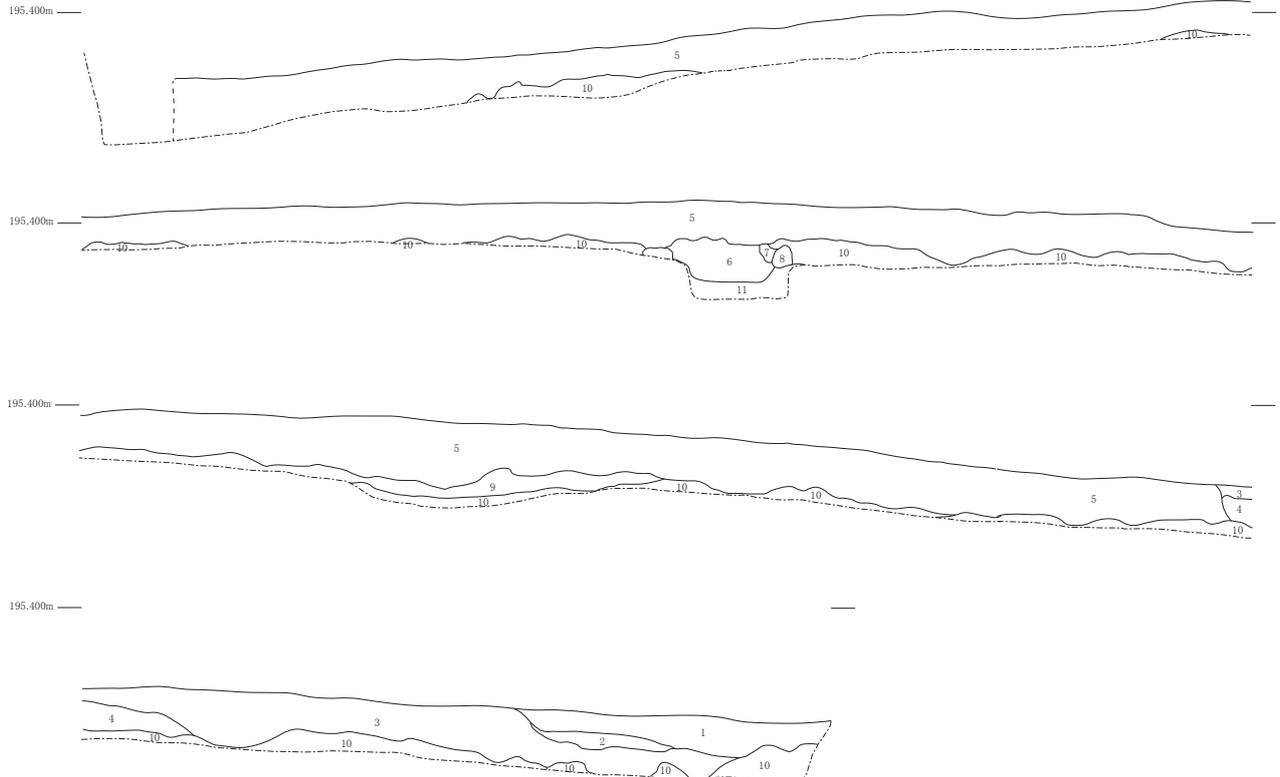
第4図 基本層序 (S=1/30)

南東壁土層

197.000m



ベルト土層 (アカホヤ下位)



1. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 10 mm以下の黄褐色、橙色軽石、1 mm以下の白色粒を多く含む。しまりあり。
2. 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 5 mm以下の黄褐色、橙色軽石、2 mm以下の灰白色砂粒、1 mm以下の白色粒を含む。褐色土ブロックを含む。しまりあり。
3. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 5 mm以下の黄褐色軽石、橙色軽石、2 mm以下の灰白色砂粒、1 mm以下の白色粒を多く含む。しまり強い。
4. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 5 mm以下の黄褐色軽石、橙色軽石、1 mm以下の白色粒を含む。にぶい黄褐色ブロックを多く含む。ややシルト質。やや柔らかい。
5. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 10 mm以下の黄褐色軽石、橙色軽石を多く含む。2 mm以下の灰白色砂粒を含む。1 mm以下の白色粒を多く含む。しまりあり。

6. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 5 mm以下の黄褐色軽石、橙色軽石をごく微量含む。2 mm以下の灰白色砂粒 (10YR3/2) 1 mm以下の白色粒を多く含む。しまりあり。
7. 黒色粘質土 (10YR2/1) 2 mm以下の黄褐色軽石を少量含む。にぶい黄褐色土ブロックを含む。やわらかい。
8. にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/2) 2 mm以下の灰白色砂粒を含む。やわらかい。
9. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 2 mm以下の黄褐色軽石を含む。2 mm以下の灰白色砂粒、1 mm以下の白色粒を含む。灰黄褐色土ブロックを含む。しまりあり。
10. にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) 5 mm以下の橙色軽石を含む。3 mm以下の灰白色砂粒、1 mm以下の白色粒を含む。しまりあり。
11. 灰オリーブ色シルト質土 (5Y5/2) 10 mm以下の黄褐色軽石を含む。3 mm以下の灰白色砂粒を含む。しまり強い。

第5図 調査区土層断面図 (S=1/60)

第2章 アカホヤ火山灰下位の調査

第1節 遺物、遺構の分布状況

アカホヤ、牛のスネ火山灰下部より下層は、調査区の全面に残存していたため、約 5,000m²の調査を行った。XII～XIV層が縄文時代早期の遺物包含層であり、遺物のほとんどはXII層とXIV層の最下部から出土した。遺構検出については包含層精査の途中で検出されたものを除き、XV層の上面で行った。

遺物の出土範囲は北から南西に延びる尾根沿いに集中しており、尾根から離れて斜面の傾斜が強くなると遺物の出土がなくなる。調査区全面を通じて、遺物出土地点はまばらだが、土器の型式や剥片の石材によって出土分布が偏っている傾向を確認した。また礫は遺構の周辺のみ多く出土した。出土している土器は、当地域の土器型式の、前平式、下剥峰式、塞ノ神式が出土している。石器についてはチャート、黒曜石製の剥片・石鏃が出土した。

遺構は土坑、陥し穴状遺構、集石遺構、ピットを検出した。集石遺構は数点の礫による小規模なもの、礫が周りに散布し遺構の中心が見えにくいものがほとんどであった。

第2節 遺構について

検出した遺構は、集石遺構 14 基、土坑 4 基、(内陥し穴状遺構 3 基)、ピット 8 基の計 26 基である。P11 から P17 については隣接する場所に位置するが、単体のピットと考えられる。

1 集石遺構

SI1

調査区外周の先行トレンチ掘削中に検出された。検出面では北東側の礫の残存が少ない。礫の分布は 1.1m × 1.0m、掘り込みは 1.1m × 1.1m である。検出面はXII層で、埋土は暗褐色土 (8mm 以下の黄橙色軽石を含む 1mm 以下の白色粒を多く含む) が主体で、掘り込みの底面付近のみ黒色土であった。埋土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、7701 ± 32BP の結果が出ている (第3章Ⅱ、試料1)

SI2

包含層精査中に検出している。小規模な礫の密集で磨石の破片を一部使用している。

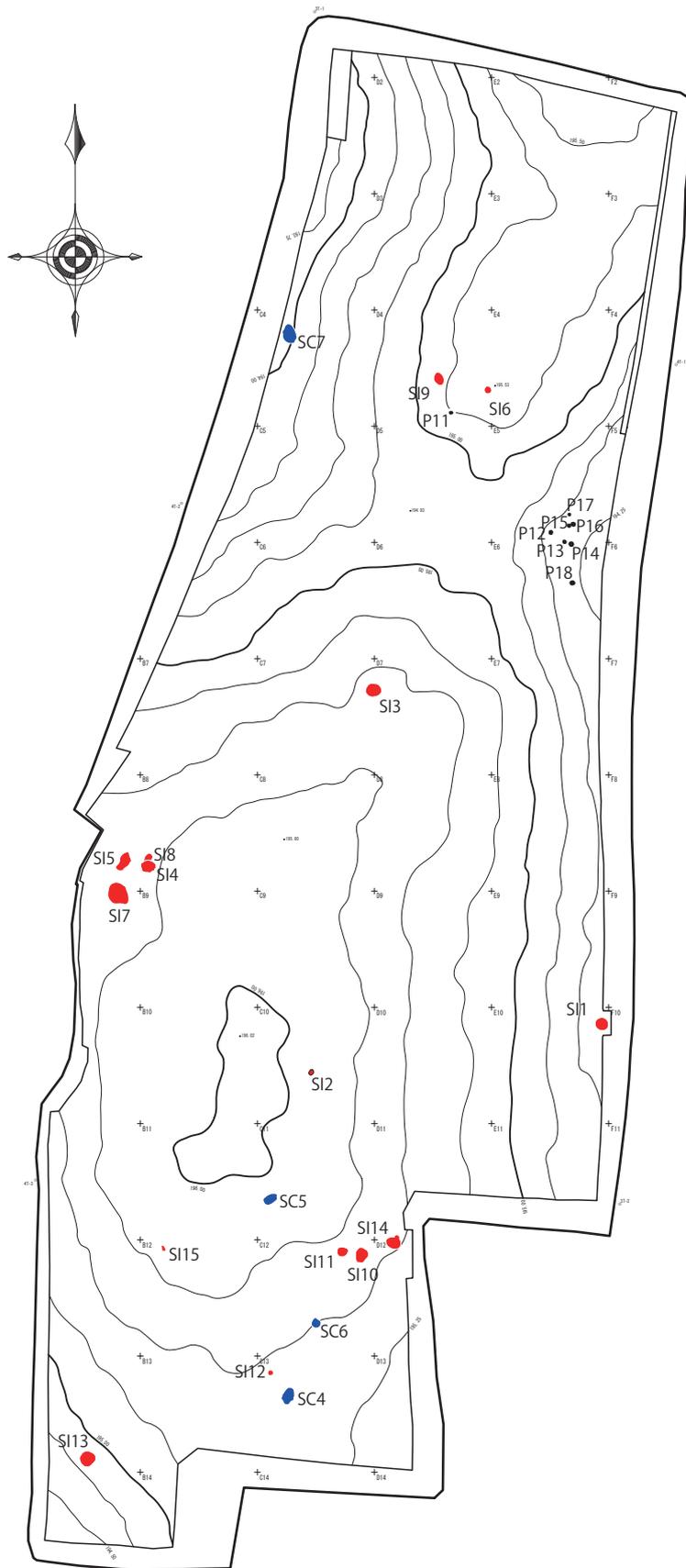
平面図を作成後、平面を精査したが、掘り込みは持たない。検出面は暗褐色土で、8mm 以下の黄橙色軽石と 1mm 以下の白色粒を多く含む。礫下の土は一部明褐色土ブロックを含む黒色土で、炭化物を少量含んでいた。

SI3

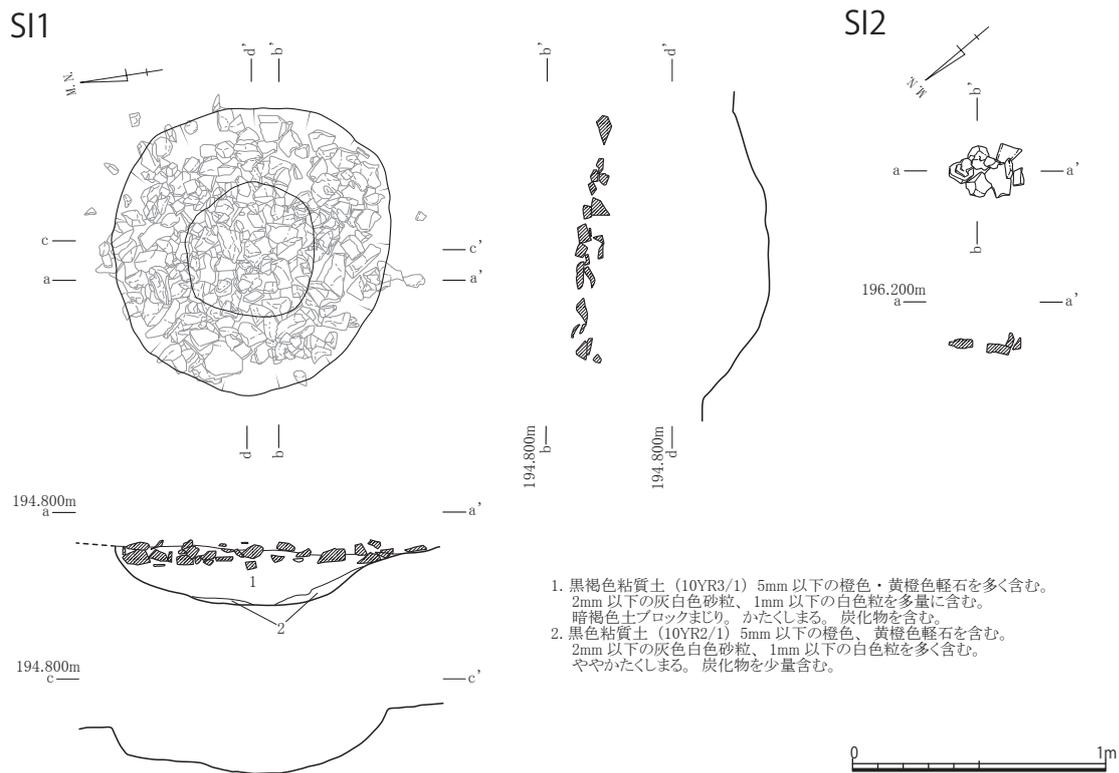
包含層精査中、礫が 8 m ほどの範囲で集中して出土したため、精査したところ、掘り込みの範囲を検出した。掘り込み中にはほとんど礫は残っておらず、礫の取り外し後に廃棄された集石遺構と考えられる。掘り込みの規模は 1.47m × 1.2m である。掘り込みの西側にやや礫が密集していた。

SI4

包含層精査中に、A-9 グリッド周辺で礫が集中して出土したため、検出した。SI8 と切りあっている。検出面の礫の残存状況はまばらで、礫の取り外し後に廃棄された集石遺構と考えられる。礫の分布は 1.35 m × 1.3m、掘り込みは 1.3m × 1.1m である。埋土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、8713 ± 34BP で、カエデ属という結果が出ている (第3章Ⅱ、試料3)



第6図 アカホヤ火山灰下位遺構配置図(S=1/600)



第7図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図①

SI5

A-9 グリッド付近にて 1.5m ほどの範囲に礫が広がったため、検出した。サブトレンチを設定したところ、掘り込みを確認した。2.2m × 1.4m、掘り込みは 1.3m × 0.9m である。

SI6

遺物包含層精査中に、礫が集中して出土していたため、精査したところ、検出した。掘り込みは検出面からは確認できない。礫の範囲は 0.8m × 0.55m、掘り込みの範囲は 0.65m × 0.6m である。深さは 0.12m で礫を含有する深さと殆ど重なり、浅い。埋土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、7778 ± 31BP で、カヤの炭化材という結果が出ている（第3章Ⅱ、試料4）

出土遺物は磨石 2 点で、**1**は掘り込み内からの出土で敲打痕を持つ。**2**は掘り込みの外から出土した。いずれも霧島山系花崗岩製である。

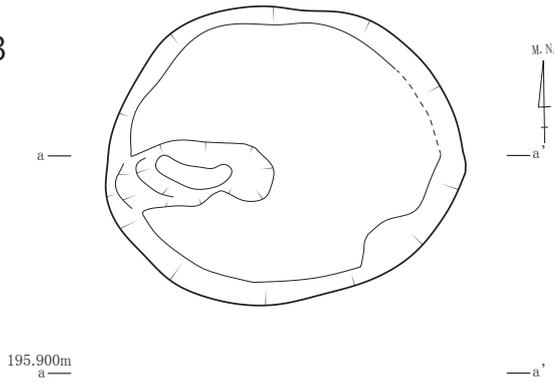
SI7

遺物包含層精査中に不定形の黒ずみがあることを確認し、サブトレを掘削したところ、下層より礫が密集して出土した。遺構検出面の上層では 5m 程の範囲で礫が多く出土しており、遺構検出面の礫の残存は少ない。遺構底面付近から礫が多く出土している状況から、廃棄後の集石であると考えられる。礫の範囲は 1.6m × 1.4m で、2.05m × 1.75m の掘り込みを持つ。埋土は上層が黒褐色を呈する。下層は黒色を呈し、炭化物を多く含んでいた。埋土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、8809 ± 31BP で、クヌギ節の炭化材という結果が出ている（第3章Ⅱ、試料5）。

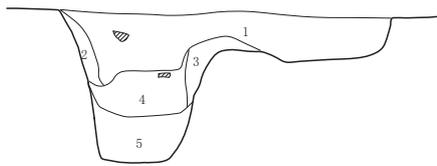
SI8

SI4 調査中にサブトレンチを掘削したところ、切り合いの集石遺構であることが判明した。SI4 に先行する。礫の検出状況から、廃棄後の集石遺構と思われる。掘り込みは 0.8m × 0.6m である。

SI3



195.900m
a—

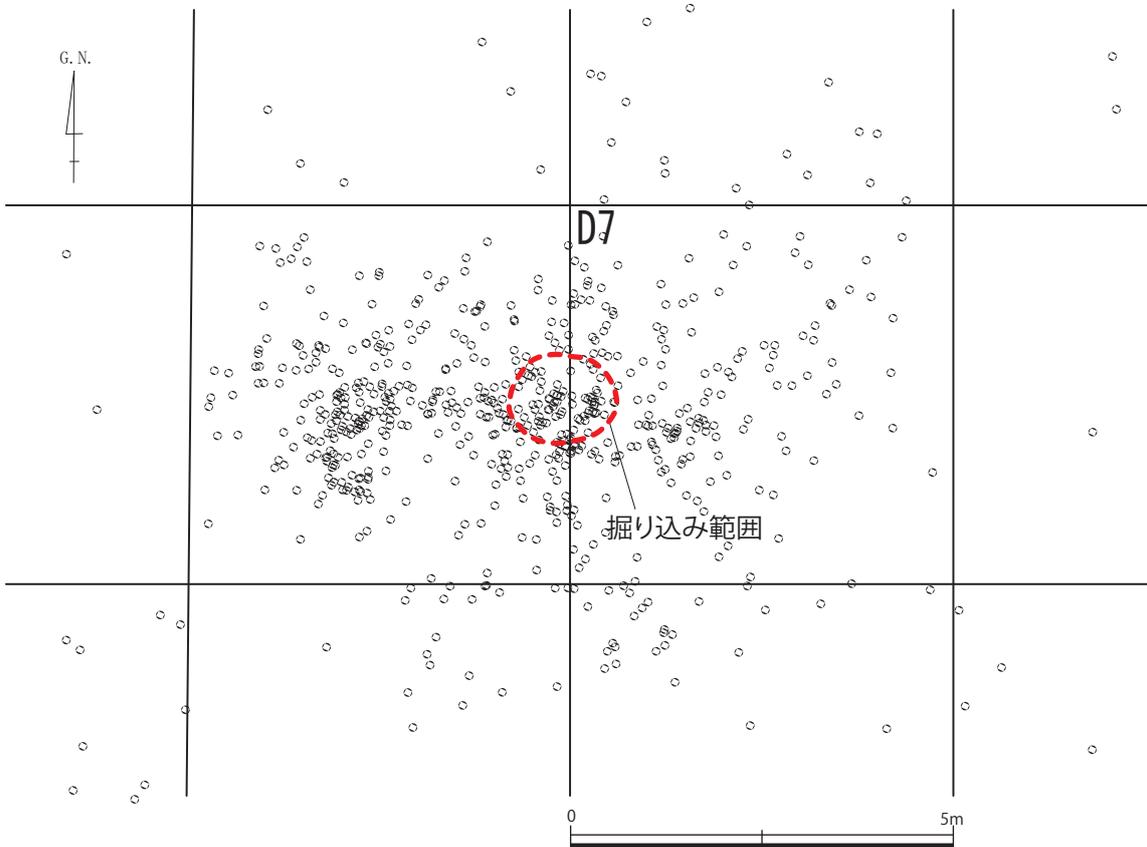


195.900m
a—

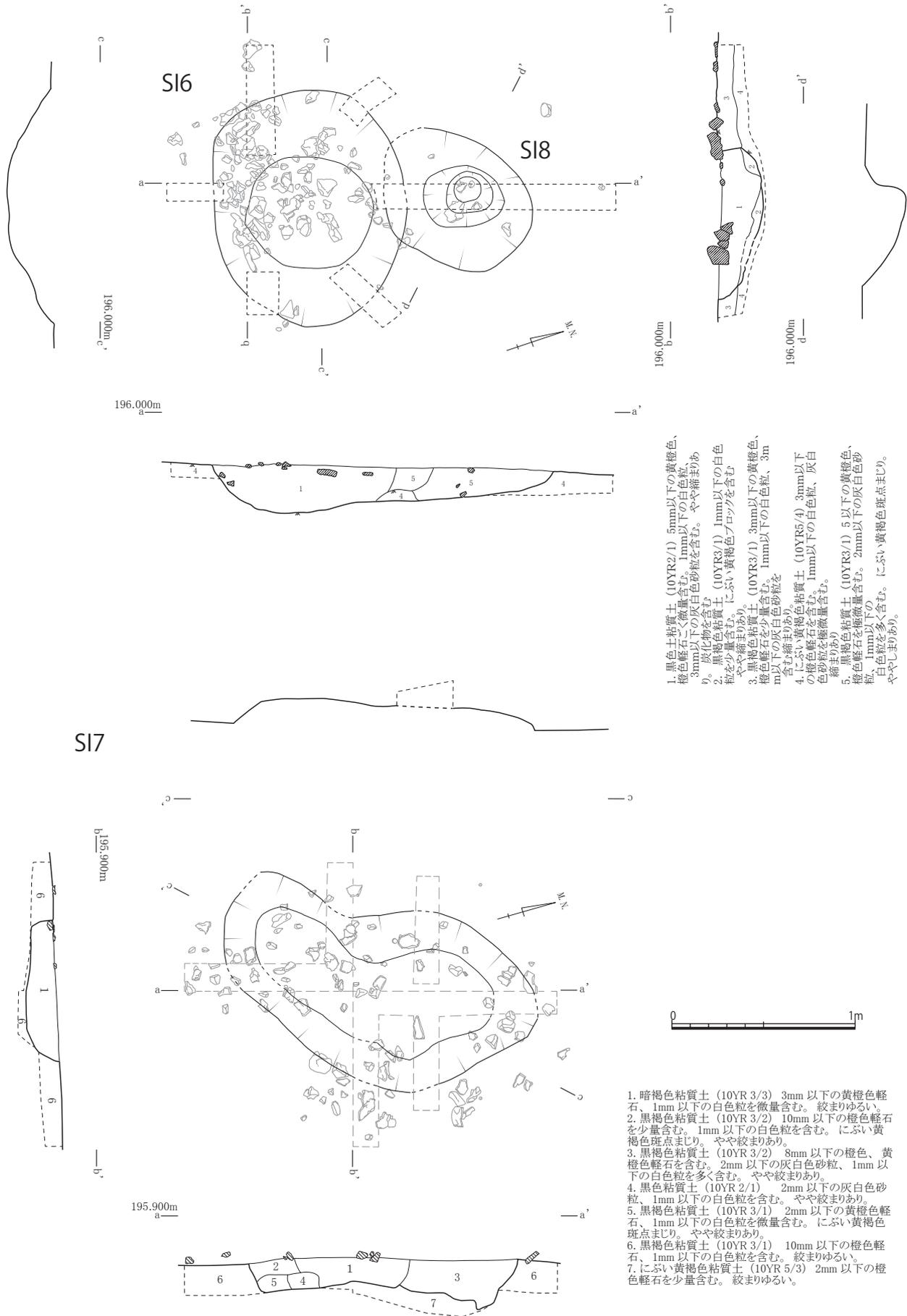
1. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 3mm 以下の黄橙色、橙色軽石を含む。2mm 以下の灰白色砂粒、1mm 以下の白色粒を多く含む。褐色土ブロックまじり。縮まりあり。
2. 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 10mm 以下の橙色軽石を微量含む。褐色土ブロックまじり。1mm 以下の白色粒を含む。やや縮まりあり。
3. にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) 1mm 以下の黄橙色軽石を微量含む。1mm 以下の白色粒を含む。
4. 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 3mm 以下の黄橙色、橙色軽石を含む。1mm 以下の灰白色砂粒、1mm 以下の白色粒を含む。褐色土ブロックまじり。やや縮まりあり。
5. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 1mm 以下の黄橙色軽石、2mm 以下の灰白色砂粒、1mm 以下の白色粒を含む。褐色土ブロックまじり。やや縮まりあり。



G. N.



第8図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図②

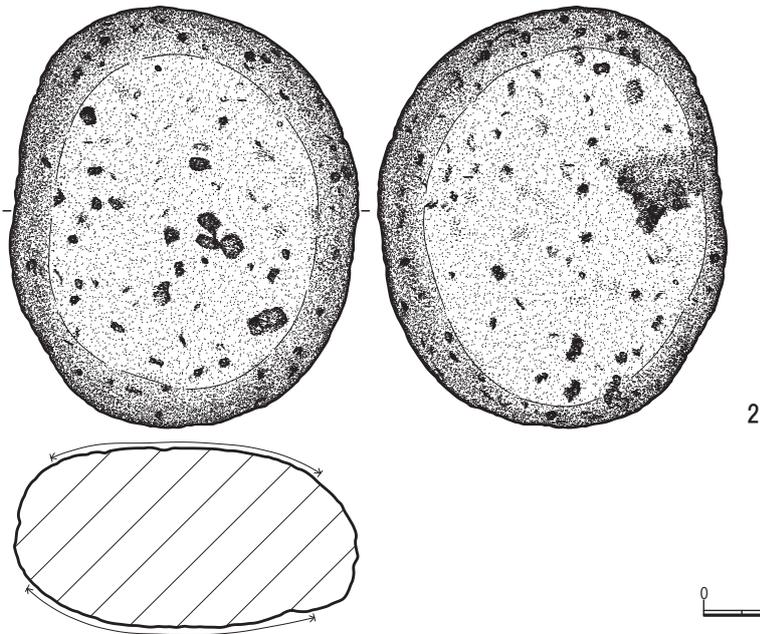
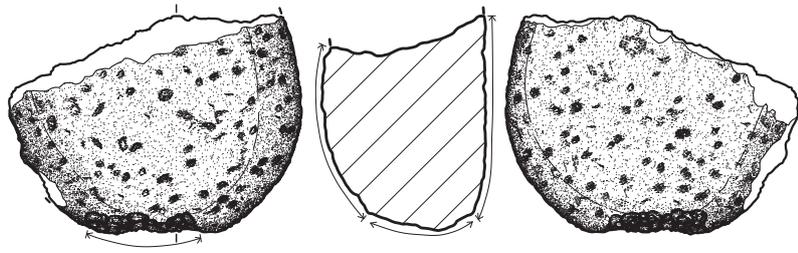
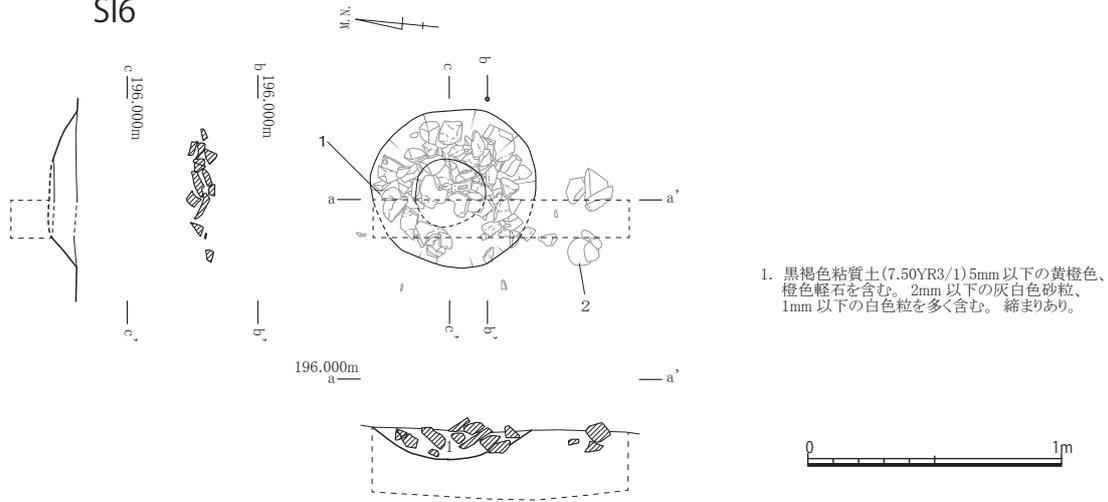


1. 黒色粘質土 (10YR2/1) 5mm以下の黄褐色、
褐色軽石ごく微量含む。1mm以下の白色粒、
3mm以下の灰白色砂粒を含む。やや絞まりあ
り。灰化物を含む。
2. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 1mm以下の白色
粒を少量含む。にぶい黄褐色プロックを含む。
やや絞まりあり。
3. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 3mm以下の黄褐色、
褐色軽石を少量含む。1mm以下の白色粒、3m
m以下の灰白色砂粒を含む。絞まりあり。
4. にぶい黄褐色粘質土 (10YR5/4) 3mm以下
の褐色軽石を少量含む。1mm以下の白色粒、灰白
色の砂粒を極微量含む。
絞まりあり。
5. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 5以下の黄褐色、
褐色軽石を極微量含む。2mm以下の灰白色砂
粒、1mm以下の
白色粒を多く含む。にぶい黄褐色斑点まじり。
ややしまりあり。

1. 暗褐色粘質土 (10YR 3/3) 3mm 以下の黄褐色軽
石、1mm 以下の白色粒を微量含む。絞まりゆるい。
2. 黒褐色粘質土 (10YR 3/2) 10mm 以下の橙色軽石
を少量含む。1mm 以下の白色粒を含む。にぶい黄
褐色斑点まじり。やや絞まりあり。
3. 黒褐色粘質土 (10YR 3/2) 8mm 以下の橙色、黄
褐色軽石を含む。2mm 以下の灰白色砂粒、1mm 以
下の白色粒を多く含む。やや絞まりあり。
4. 黒色粘質土 (10YR 2/1) 2mm 以下の灰白色砂
粒、1mm 以下の白色粒を含む。やや絞まりあり。
5. 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 2mm 以下の黄褐色軽
石、1mm 以下の白色粒を微量含む。にぶい黄褐色
斑点まじり。やや絞まりあり。
6. 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 10mm 以下の橙色軽
石、1mm 以下の白色粒を含む。絞まりゆるい。
7. にぶい黄褐色粘質土 (10YR 5/3) 2mm 以下の橙
色軽石を少量含む。絞まりゆるい。

第9図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図③

SI6

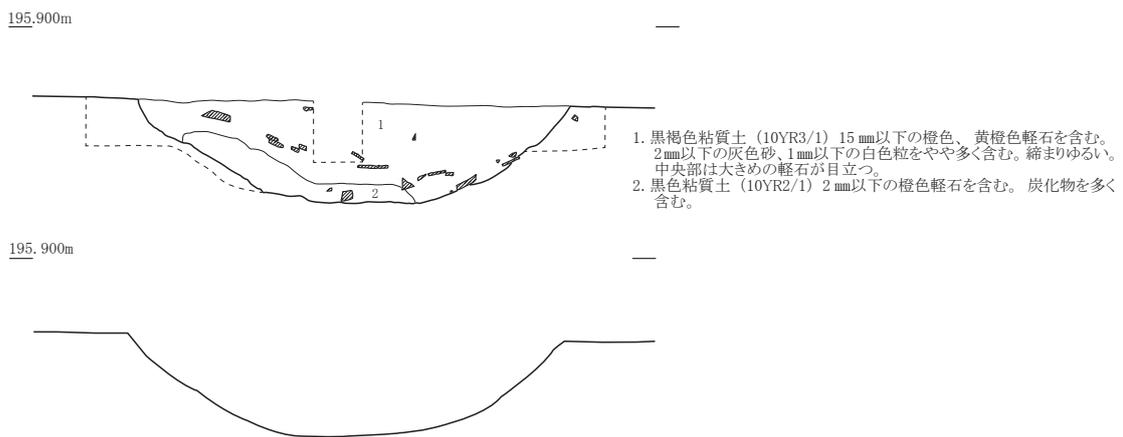
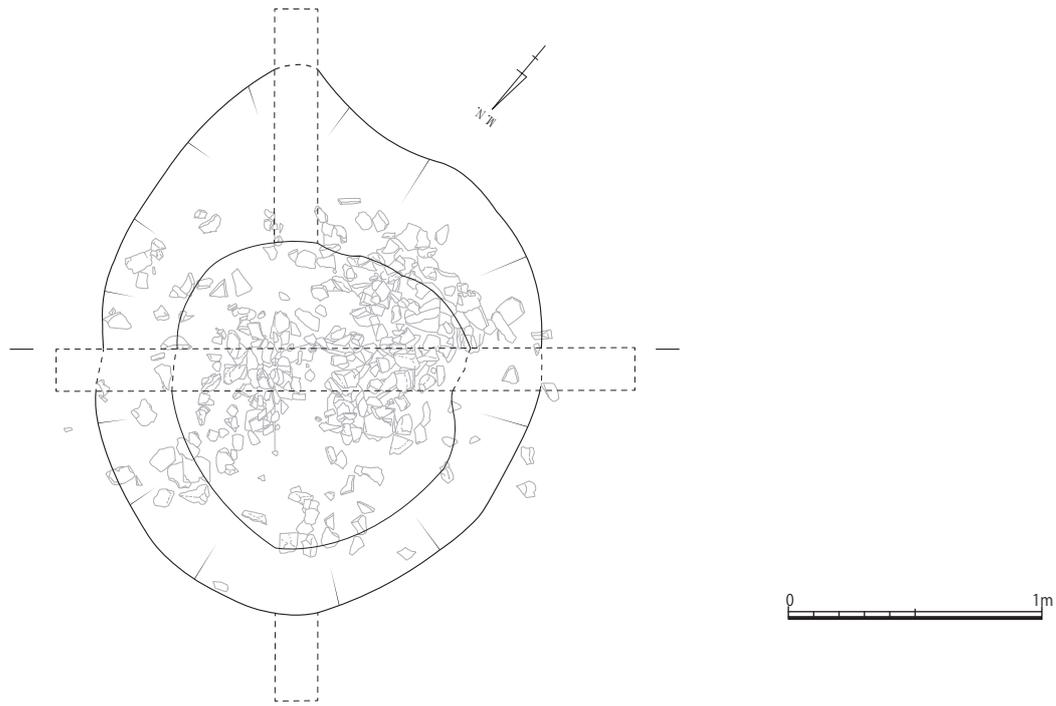


0 5cm

(1/2)

第10図 アカホヤ火山灰下位検出 SI実測図④

SI7



第 11 図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑤

SI9

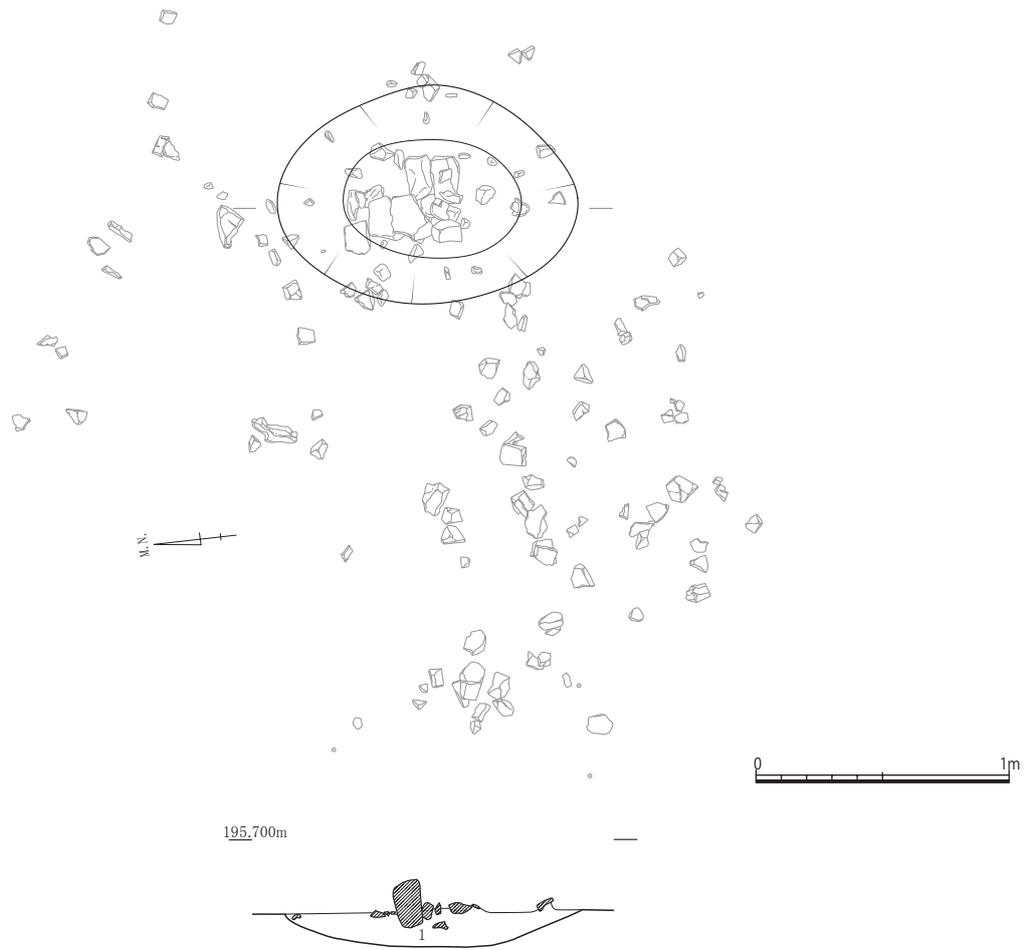
遺物包含層精査中に、10m 程の範囲で礫の散布が見受けられたため、精査し検出した。掘り込み中の礫の量は少ないが、散布した礫より大きい礫が残存していた。掘り込みは 1.0m × 0.85m と平面形は楕円形を呈し、掘り込み中からは少量の炭化物を採取した。

SI10

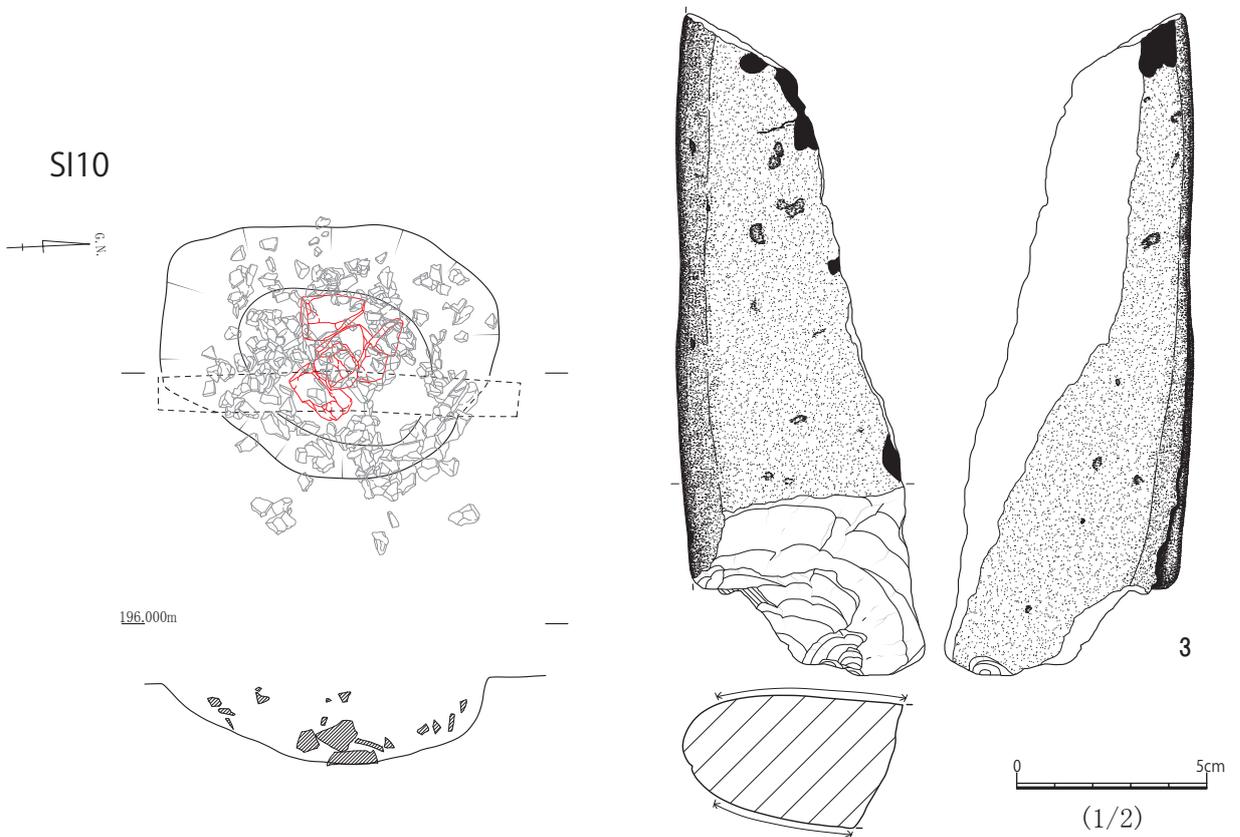
調査区南の先行トレンチ掘削時に周囲から礫が多く出土しており、周辺を精査したところ検出した。検出面にやや炭化物を含む。礫の分布範囲は 1.0m × 1.0m で、掘り込みは 1.3m × 1.1m である。配石を持つ。集石内より、石皿の転用と思われる破片が出土した (3~5)。

SI11

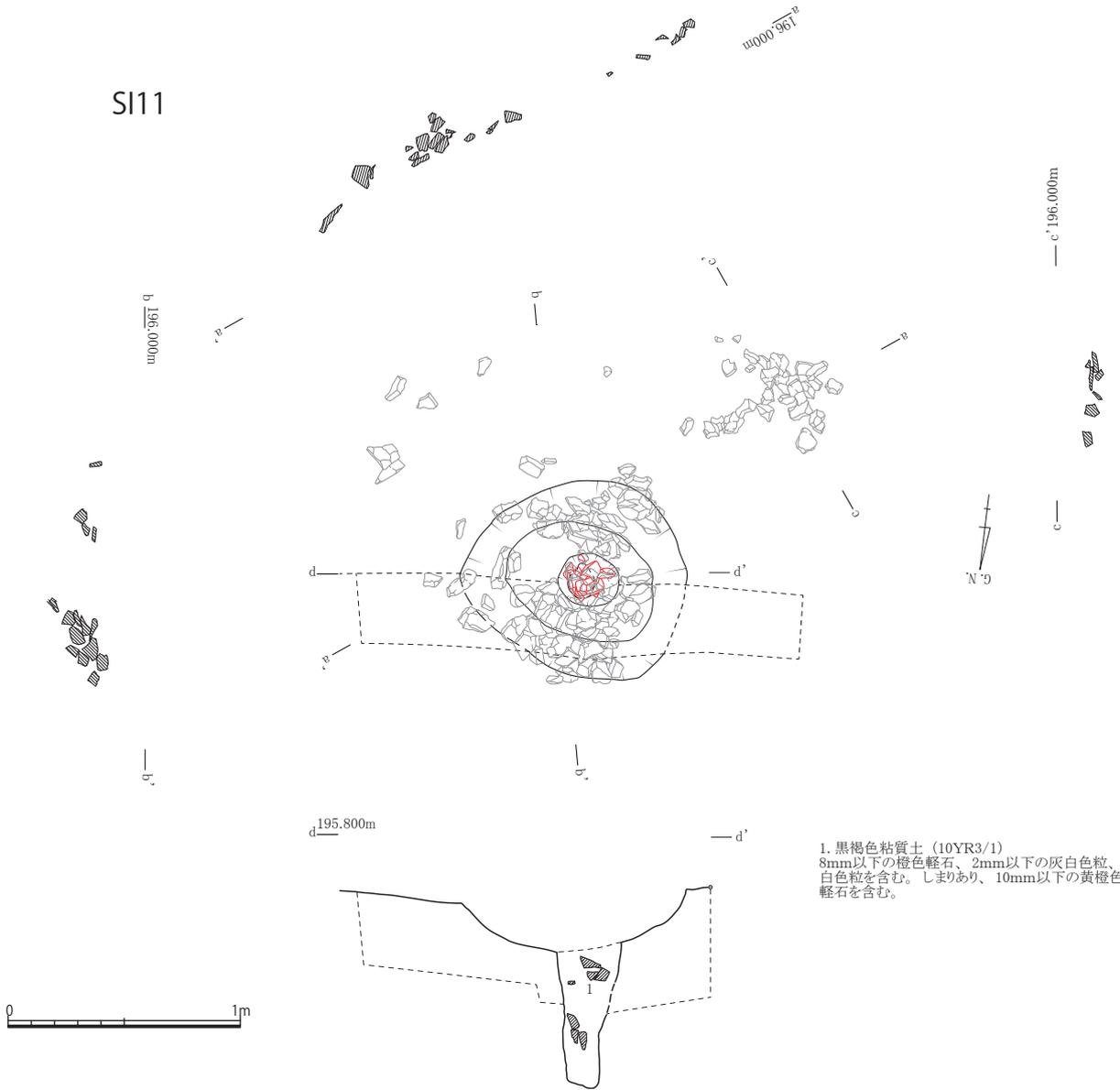
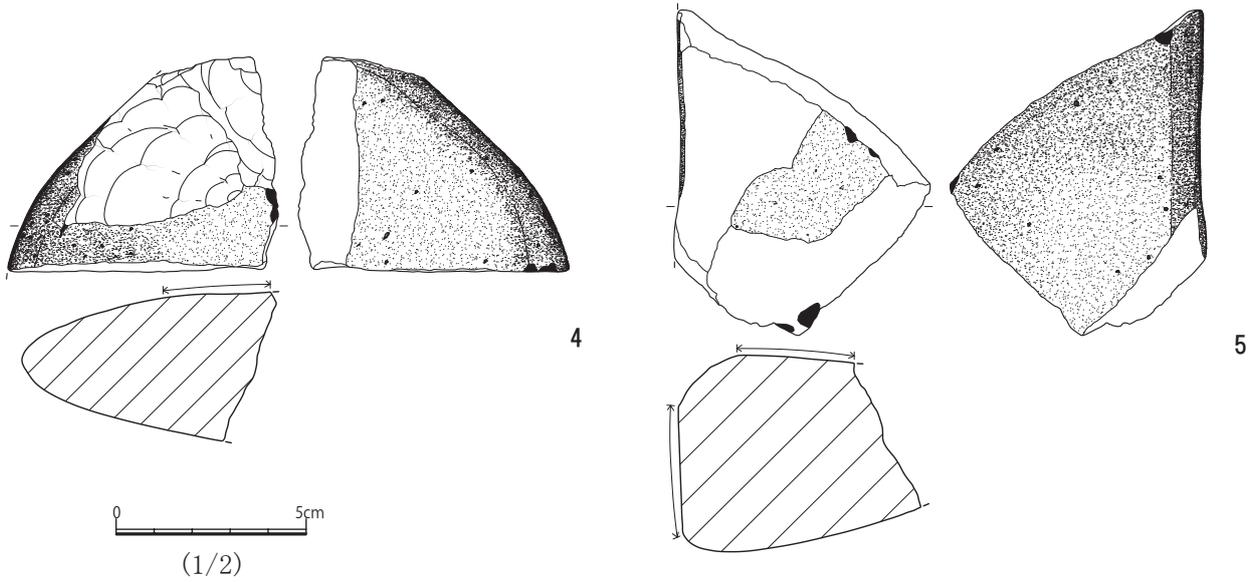
S19



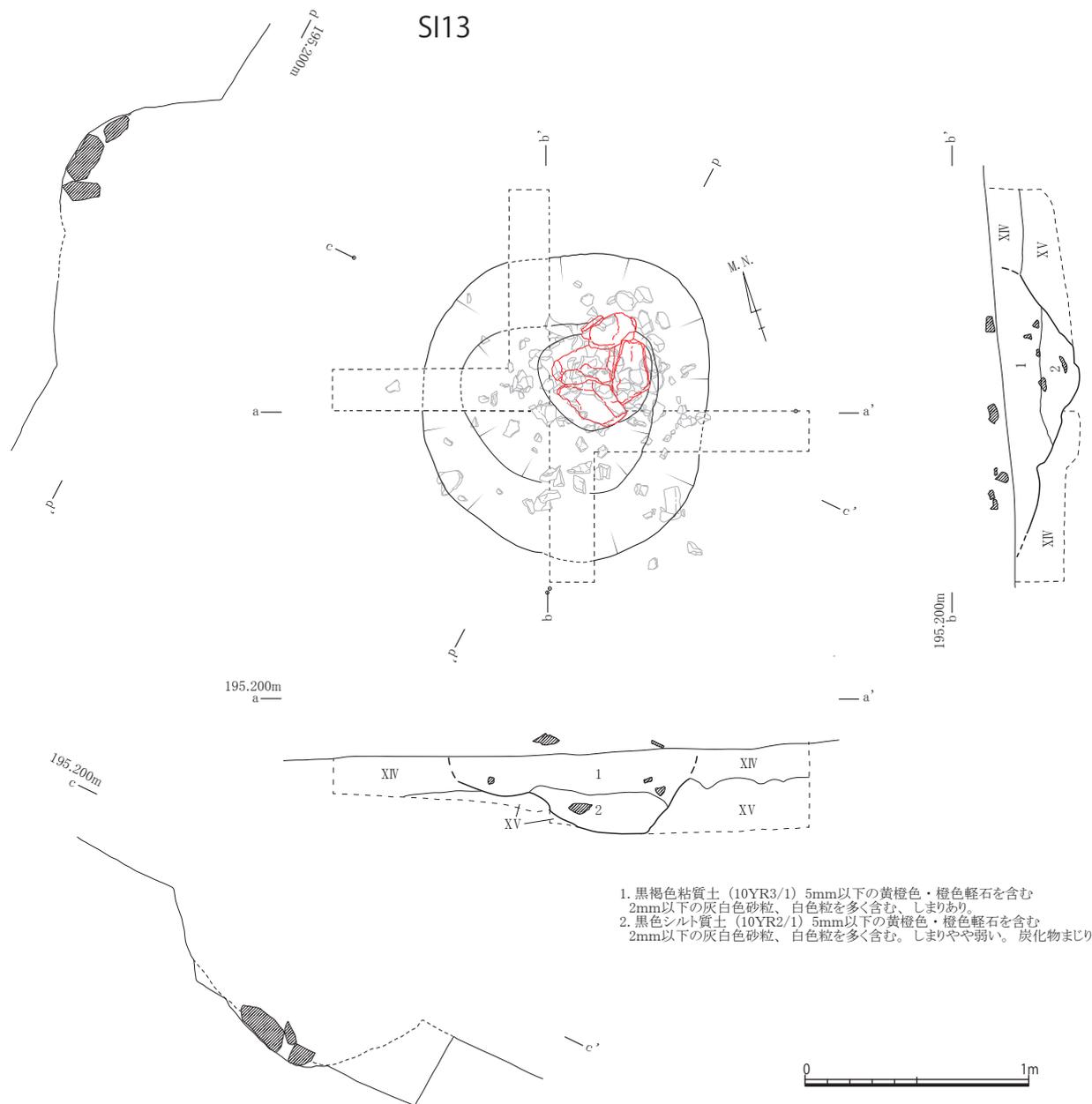
S110



第 12 図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑥



第13図 アカホヤ火山灰下位検出 SI実測図⑦

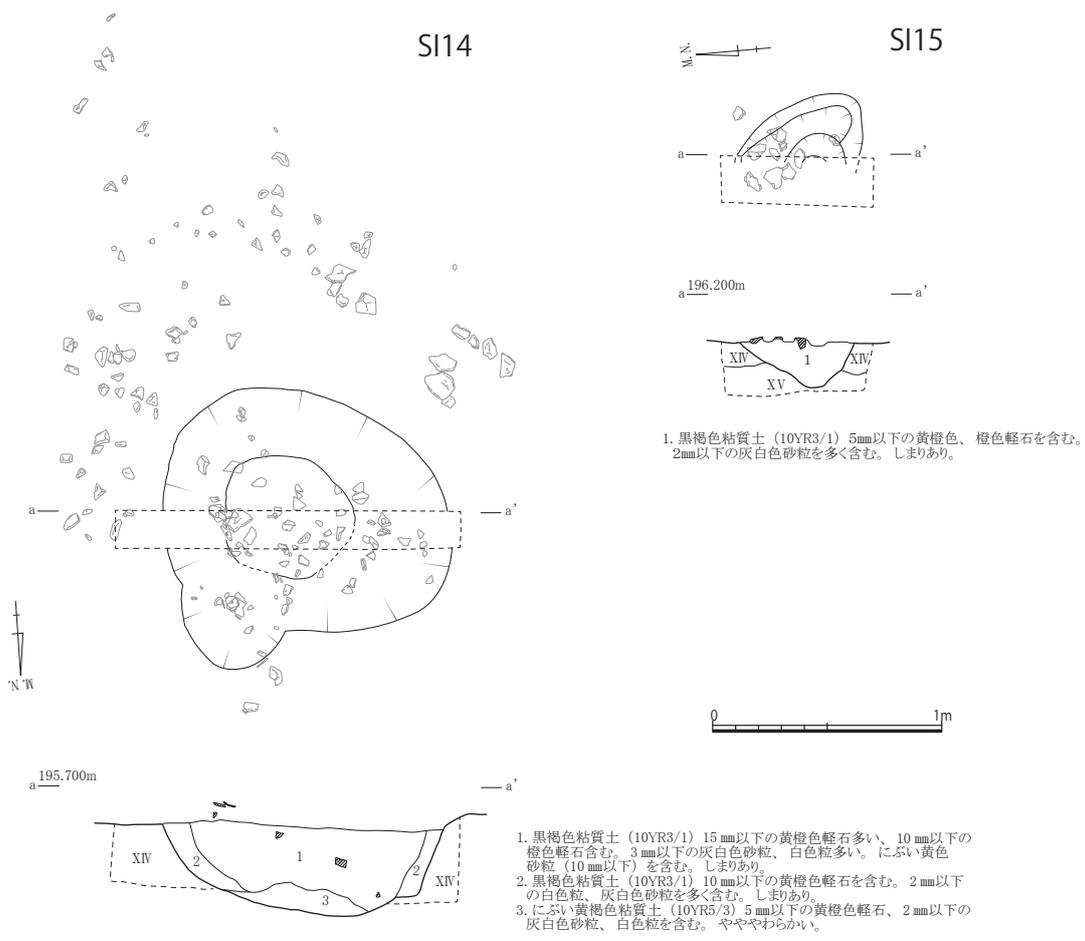


第 14 図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑧

調査区南先行トレンチ掘削時に礫が多く出土しており、周辺を精査したところ検出した。検出面では南西側は礫の検出は少なかった。礫の分布範囲は 1.0m × 1.0m である。調査区北東側にもまとまって礫が出土しており、集石内の礫を取り外したものと考えられる。掘り込みを検出し、礫を取り外したところ、掘り込みの中心部にピット状の黒ずみを検出したため、半截したところ、下層から礫を検出した。遺構下から掘り込んでおり配石として記録したが、別の遺構である可能性もある。掘り込みの範囲は 1.0m × 0.85m である。

SI13

調査区南側の遺物包含層掘削中、5m 程の範囲で礫が散布していたことで検出した。検出面の礫は少ないが、サブトレンチを掘削したところ、礫が密集しだし、配石を検出した。検出面からの礫の範囲は 1.4m × 1.3m で、分布よりやや北東に寄っている。掘り込みは 1.3m × 1.3m である。埋土中から出土した炭化材と炭化種実の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、炭化材はクリで 8767 ± 34BP、炭化種実はノビルで 8775 ± 34BP の値が出ている (第 3 章 II、試料 7・8)。



第 15 図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑨

SI14

調査区南側の先行トレンチ掘削時に礫が多く出土し精査したところ、集石遺構の掘り込みを検出した。掘り込みは不明瞭である。3.0m × 2.0mの範囲に特に礫のまとまりが確認できた。掘り込みは1.2m × 1.0mである。

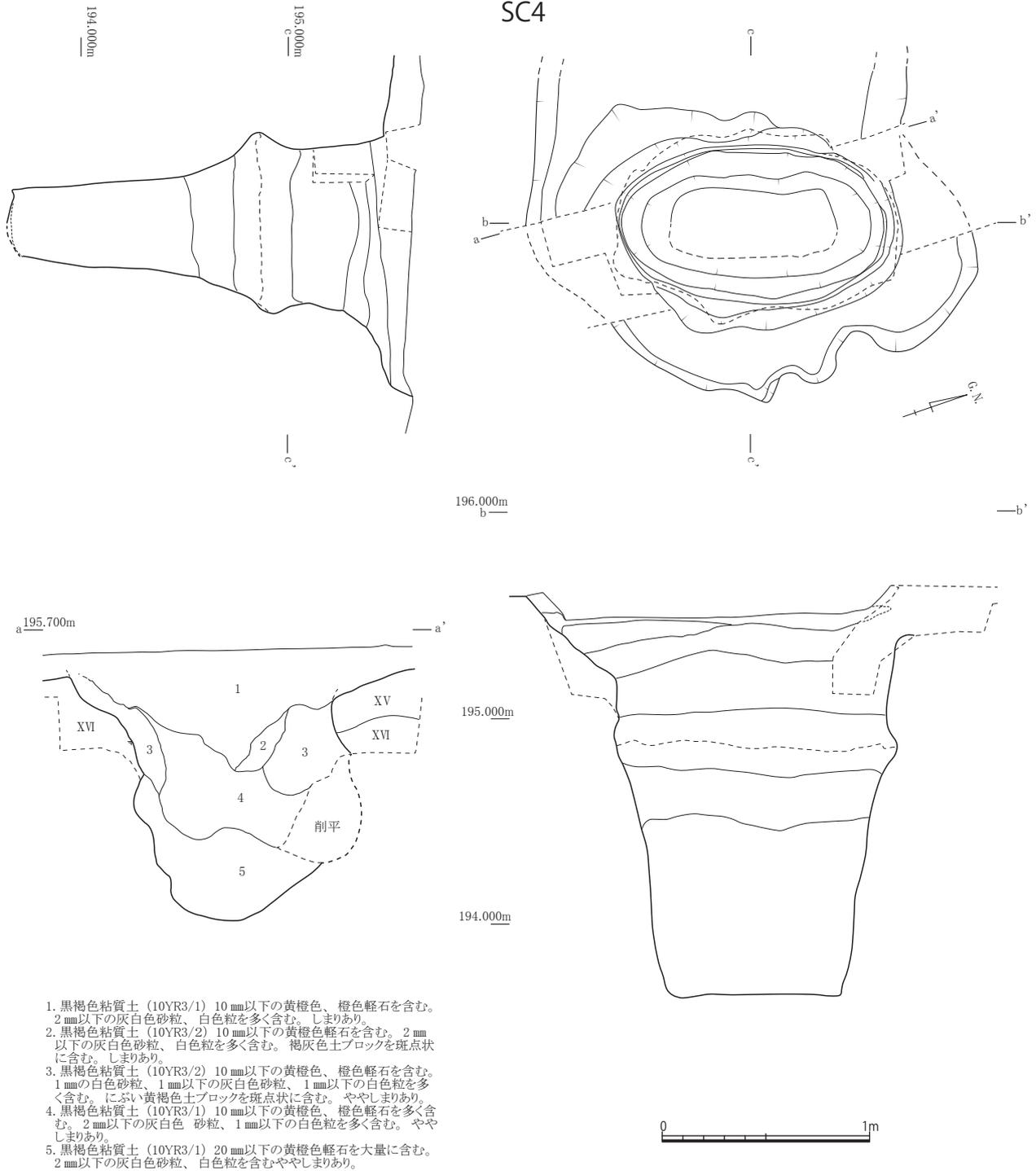
SI15

土層ベルトを掘削中、礫の密集が確認できたことで検出した。周囲の掘り下げが完了していたため、礫の残存は悪いが、サブトレンチ掘削したところ、断面で掘り込みを確認した。掘り込みの残存規模は0.5m × 0.3mである。

2 土坑

SC4

調査区南側の先行トレンチ掘削時に検出した。遺構際から20cmほどは緩やかに傾斜する。長軸2.0m、短軸1.4mで平面形は楕円形であり、検出面からの深さは2.0mである。遺構の中央付近は柔らかい埋土だが、軽石が増える壁付近は硬い土質になる。底面を精査したが、逆茂木は確認されなかった。陥し穴状遺構と考えられる。



第 16 図 アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図①

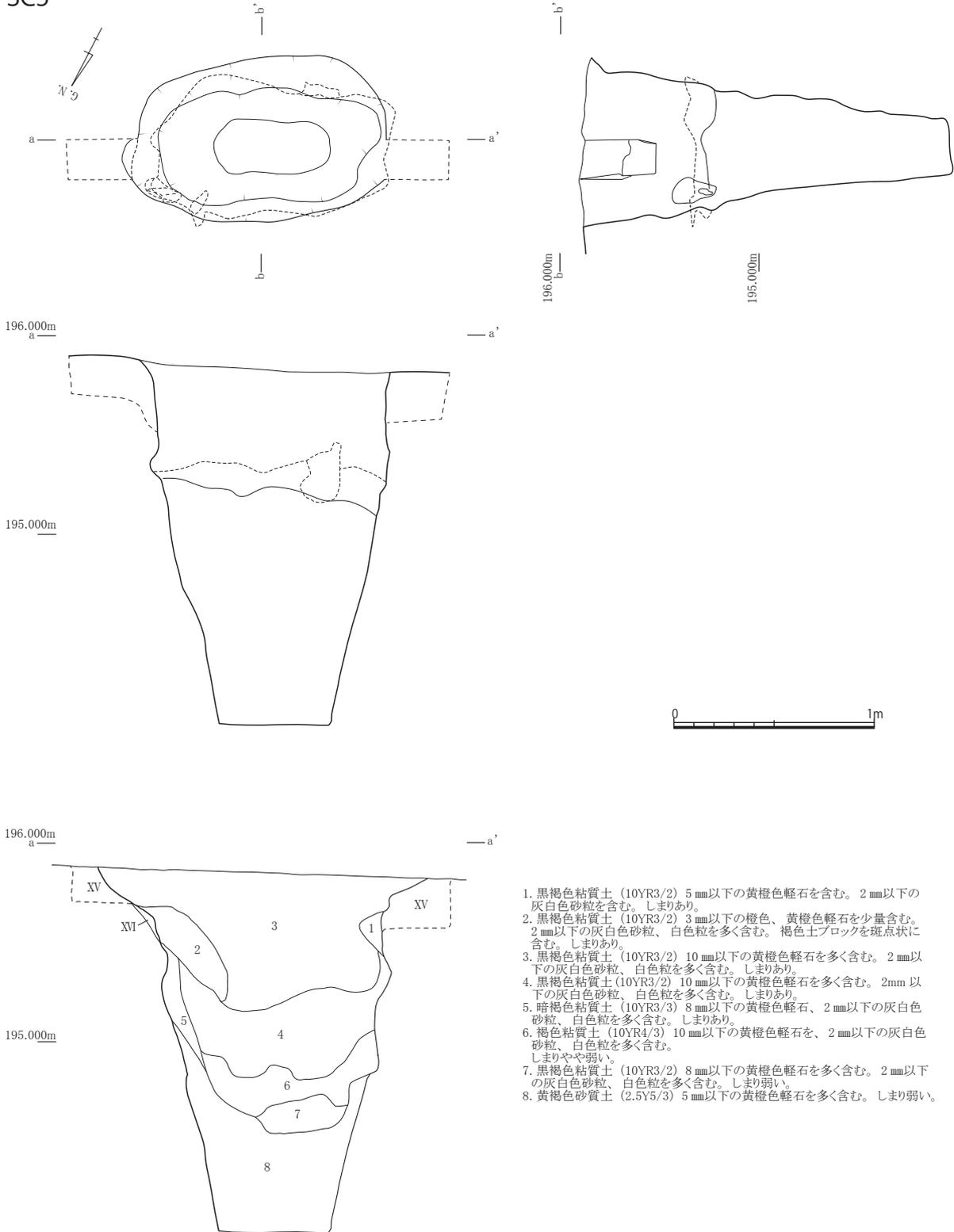
SC5

遺物包含層掘削後、精査したところ検出した。サブトレンチを設定したところ、埋土が確認できたため、半截を行った。規模は長軸 1.24m、短軸 0.82m の楕円形で、検出面からの深さは 1.82m を測る。長軸側の壁面に凹みを持つ。逆茂木は確認されなかった。形状から陥し穴状遺構と考えられる。

SC6

遺物包含層掘削中、検出した。サブトレンチを掘削したところ、一部分がピット状に落ち込んでいたため、平面プランを測量後、裁ち割って調査を行った。平面プランは楕円形で、規模は 0.8m × 0.7m で、掘り込

SC5



1. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 5 mm以下の黄橙色軽石を含む。2 mm以下の灰白色砂粒を含む。しまりあり。
2. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 3 mm以下の橙色、黄橙色軽石を少量含む。2 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を多く含む。褐色土ブロックを斑点状に含む。しまりあり。
3. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 10 mm以下の黄橙色軽石を多く含む。2 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を多く含む。しまりあり。
4. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 10 mm以下の黄橙色軽石を多く含む。2 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を多く含む。しまりあり。
5. 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 8 mm以下の黄橙色軽石、2 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を多く含む。しまりあり。
6. 褐色粘質土 (10YR4/3) 10 mm以下の黄橙色軽石を、2 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を多く含む。しまりやや弱い。
7. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 8 mm以下の黄橙色軽石を多く含む。2 mm以下の灰白色砂粒、白色粒を多く含む。しまり弱い。
8. 黄褐色砂質土 (2.5Y5/3) 5 mm以下の黄橙色軽石を多く含む。しまり弱い。

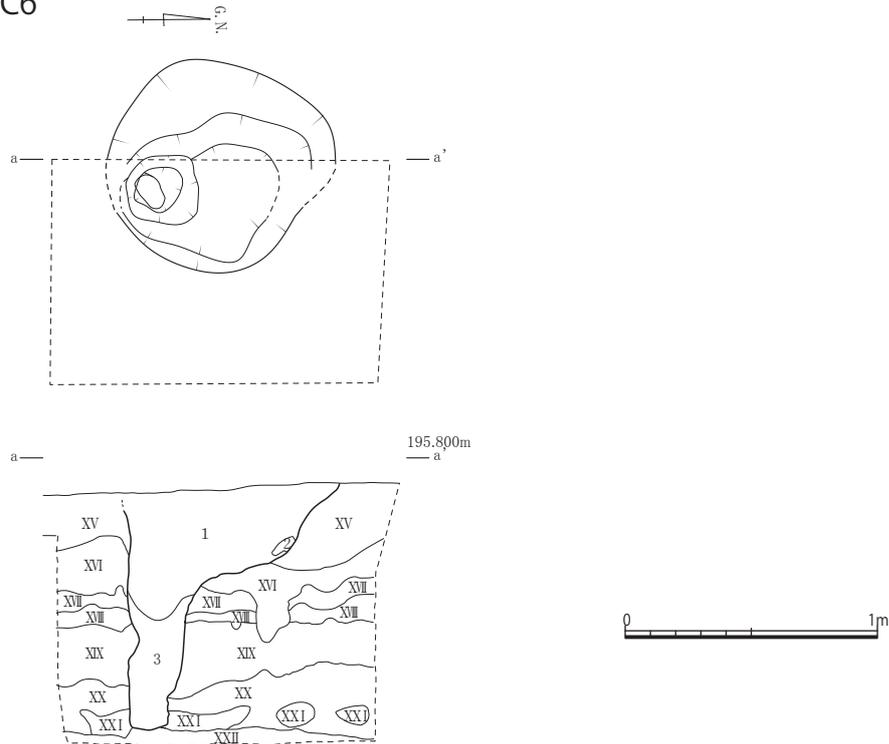
第 17 図 アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図②

みは最大深 0.9 m でハイヒール状土坑と考えられる。

SC7

遺物包含層精査中に検出した。平面プランは楕円形で、長軸 1.9m、短軸は 1.3m である。検出面からの深さは 2.1m を測る。埋土の下層は小林軽石下層の壁が崩落して埋没したと思われる。埋土中に灰色の紐状

SC6



第 18 図 アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図③

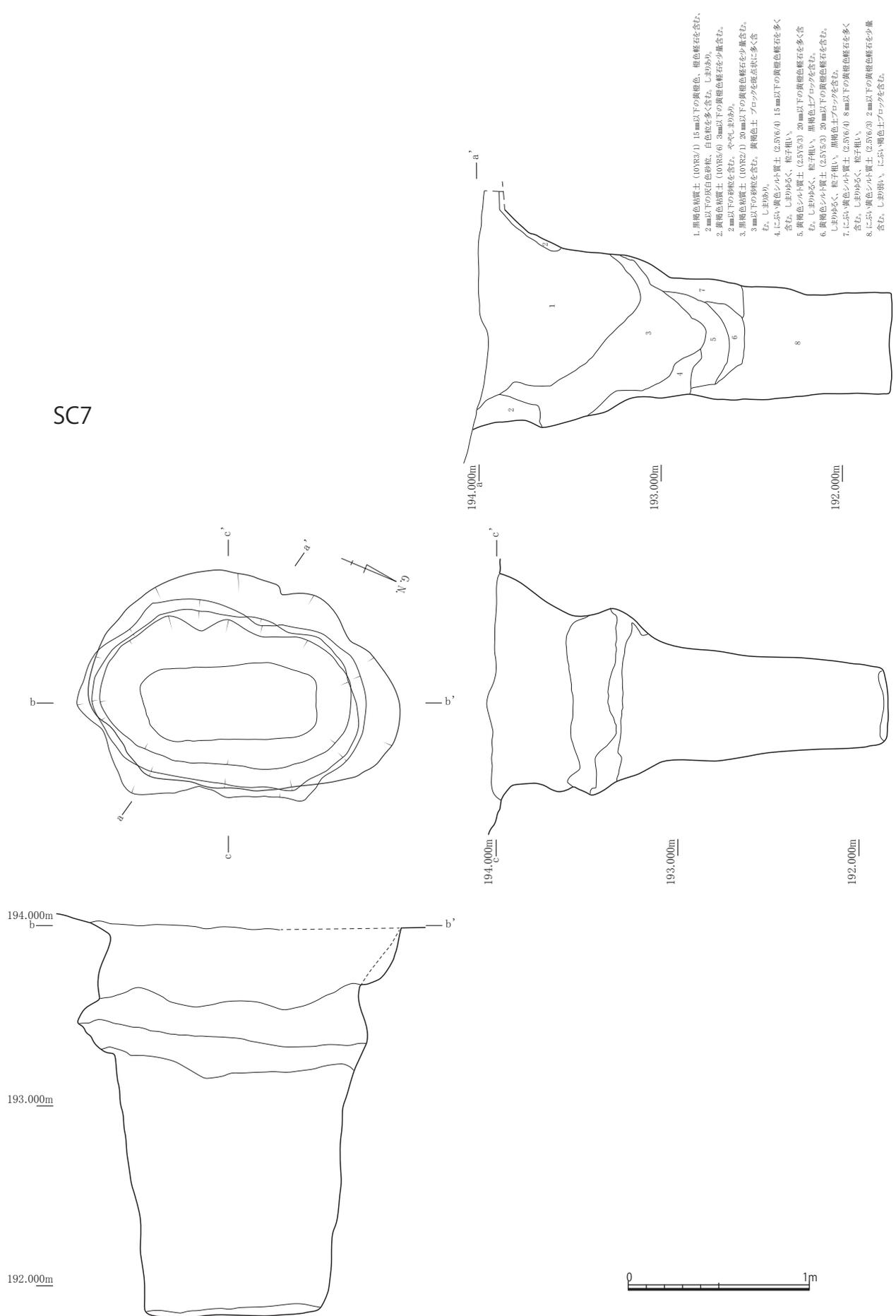
物質を確認したため、成分分析（植物珪酸体分析、灰像分析）を行ったが、給源に関する情報は得られなかった（第3章V、試料9）。形状から陥し穴状遺構と考えられる。

3 ピット

P11 は D-4 グリッドに位置する。遺物包含層精査後に検出した。径 0.6m、深さ 0.4m を測る。

P12 から P17 は E-5 グリッドに位置する。遺物包含層精査後に検出し、裁ち割りによる調査を実施した。P12 は径 0.23m、深さ 0.42m を測る。P13 は径 0.12m、深さ 0.22m を測る。P14 は径 0.25m、深さ 0.22m である。P15 は径 0.28m、深さ 0.32m を測る。P16 は径 0.17m、深さ 0.38m を測る。P17 は径 0.25m、深さ 0.30m を測る。

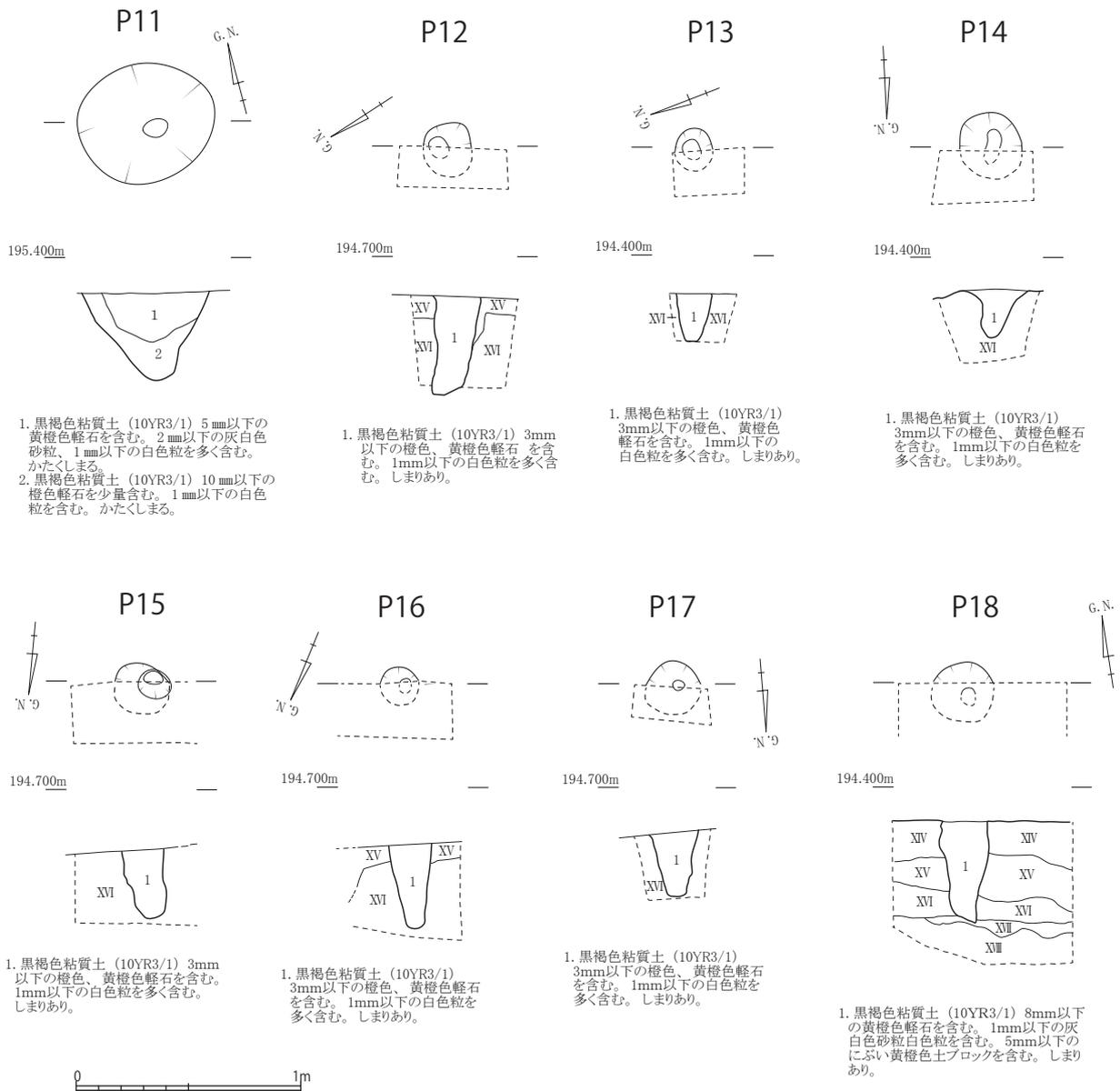
P18 は E-6 グリッドに位置する。遺物包含層精査後に検出した。径 0.3m、深さ 0.45m である。



SC7

1. 黒褐色粘質土 (DVR3/1) 15mm以下の黄褐色、褐色軽石を含む。
2. 2mm以下の灰白色砂粒、白色泥を多く含む。しじりあり。
3. 黒褐色粘質土 (DVR5/6) 5mm以下の黄褐色軽石を少量含む。
4. 2mm以下の砂粒を含む。ややしじりあり。
5. 黒褐色粘質土 (DVR2/1) 20mm以下の黄褐色軽石を少量含む。
6. 3mm以下の砂粒を含む。黄褐色土、ブロックを斑点状に多く含む。しじりあり。
7. 4.および黄褐色シロ質土 (G.SV6/4) 15mm以下の黄褐色軽石を多く含む。しじりあり。粘土相。
8. 黄褐色シロ質土 (G.SV7/2) 20mm以下の黄褐色軽石を多く含む。しじりあり。粘土相。
9. 黄褐色シロ質土 (G.SV5/3) 20mm以下の黄褐色軽石を含む。しじりあり。粘土相。
10. 黄褐色シロ質土 (G.SV5/3) 20mm以下の黄褐色軽石を含む。しじりあり。粘土相。
11. 黄褐色シロ質土 (G.SV6/4) 5mm以下の黄褐色軽石を多く含む。しじりあり。粘土相。
12. 黄褐色シロ質土 (G.SV6/3) 5mm以下の黄褐色軽石を少量含む。しじりあり。しじり相。しじり相土、ブロックを含む。

第 19 図 アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図④



第20図 アカホヤ火山灰下位検出ピット実測図

第1表 アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土石器観察表

掲載番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	SI6	磨石	霧島山系花崗岩	5.80	7.70	4.50	236.1	敲打痕あり
2	SI6	磨石	霧島山系花崗岩	11.15	9.15	4.80	660.4	
3	SI10	石皿	砂岩	17.55	6.55	4.20	414.2	
4	SI10	石皿	砂岩	5.70	7.10	4.30	168.3	
5	SI10	石皿	砂岩	8.60	6.75	5.30	296.5	被熱痕あり

第3節 遺物について

遺物の出土範囲は北から南西に延びる尾根沿いに集中しており、尾根から離れて斜面の傾斜が強くなると遺物の出土がなくなる。全面を通じて、遺物出土地点はまばらだが、土器の型式や剥片の石材によって出土分布が偏っていた。出土している土器は、当地域の土器型式の、前平式、下剥峰式、桑ノ丸式、別府原式、塞ノ神式が出土している。下剥峰式は調査区内の頂部からやや北に下る傾斜地、桑ノ丸式は調査区頂部から南に下る傾斜地、塞ノ神式土器は調査区北側の尾根付近に分布していた(第21図)。石器についてはチャート、黒曜石製の剥片・石鏃が出土した。黒曜石は調査区北半、チャートは調査区南半から多く出土した。

1 出土土器について

前平式土器(6)

円筒形の器形で、胴部に貝殻条痕を施し、その上から沈線を施文する。志風頭段階に相当すると思われる。

下剥峰式土器(7)

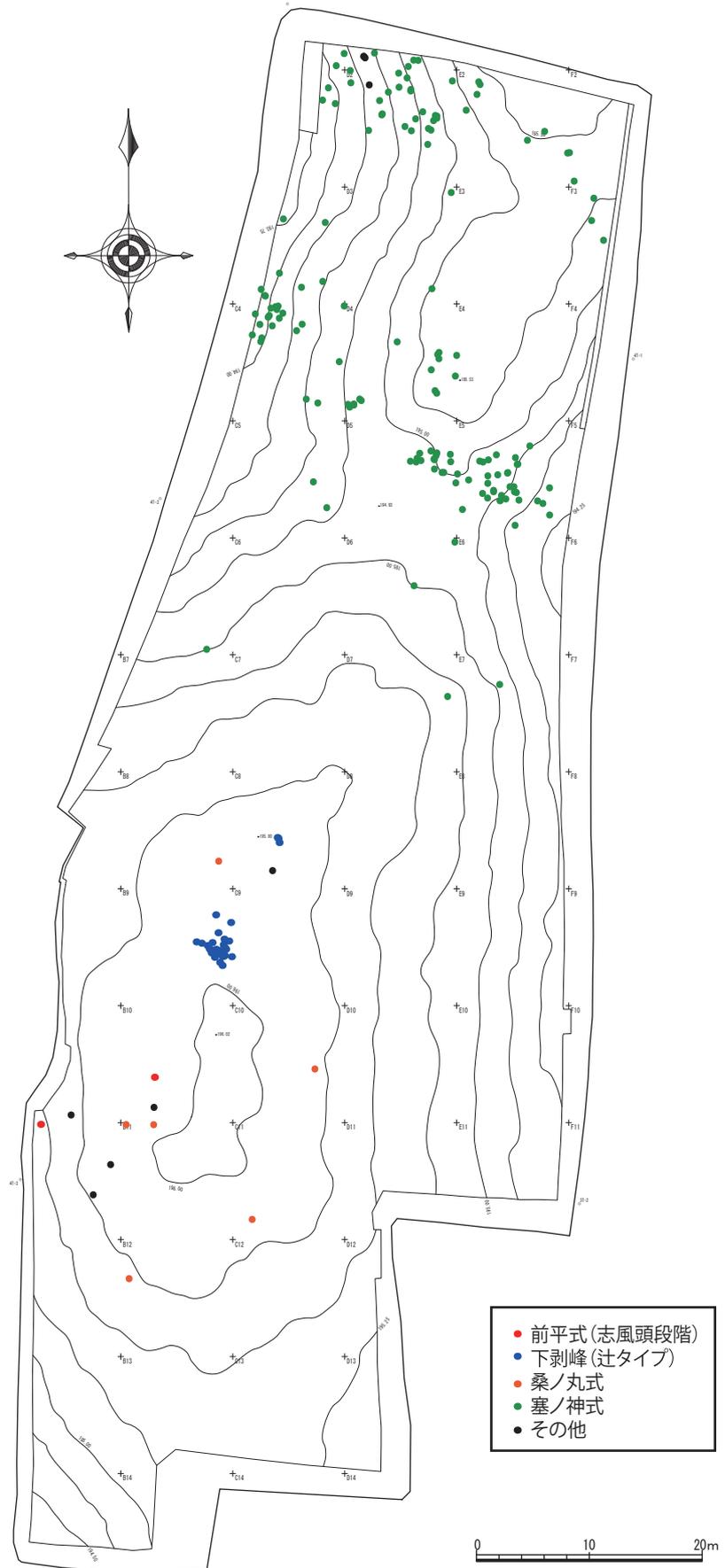
口縁部が内湾もしくは直立するバケツ状の器形で、器面に羽状の短沈線文と横位の刺突文を施す。辻タイプに相当すると思われる。

桑ノ丸式土器(8・9)

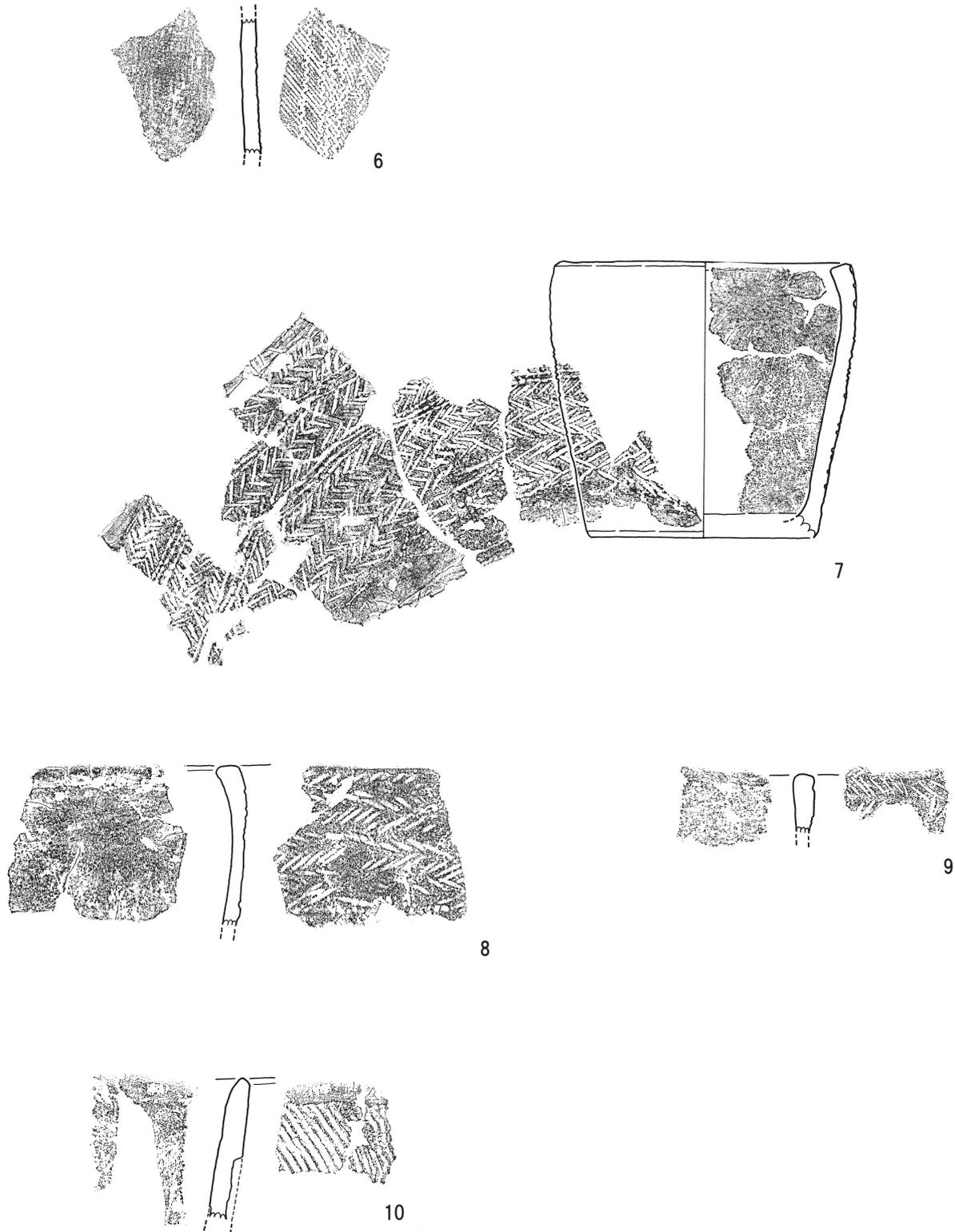
口縁部が内湾もしくは直立するバケツ状の器形を呈し、沈線による羽状文を持つ一群である。8は内湾する口縁部、9は直立する口縁部を持つ。

別府原式土器(10)

器面に斜位の貝殻条痕を施す。口唇部は横方向にナデを行っている。



第21図 アカホヤ火山灰下位出土土器分布図 (S=1/600)

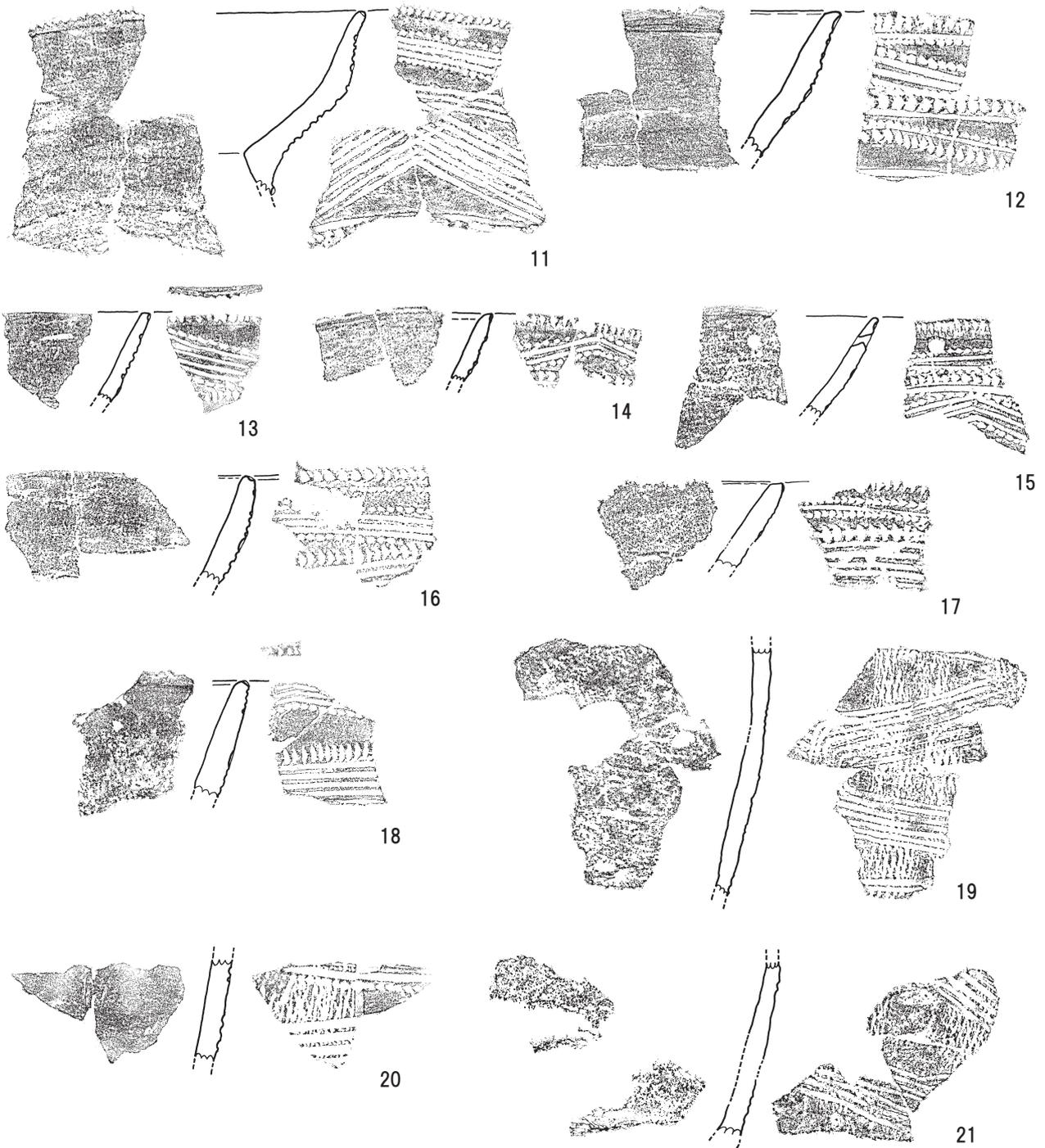


第 22 図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図① (S=1/3)

塞ノ神式土器 (11 ~ 39)

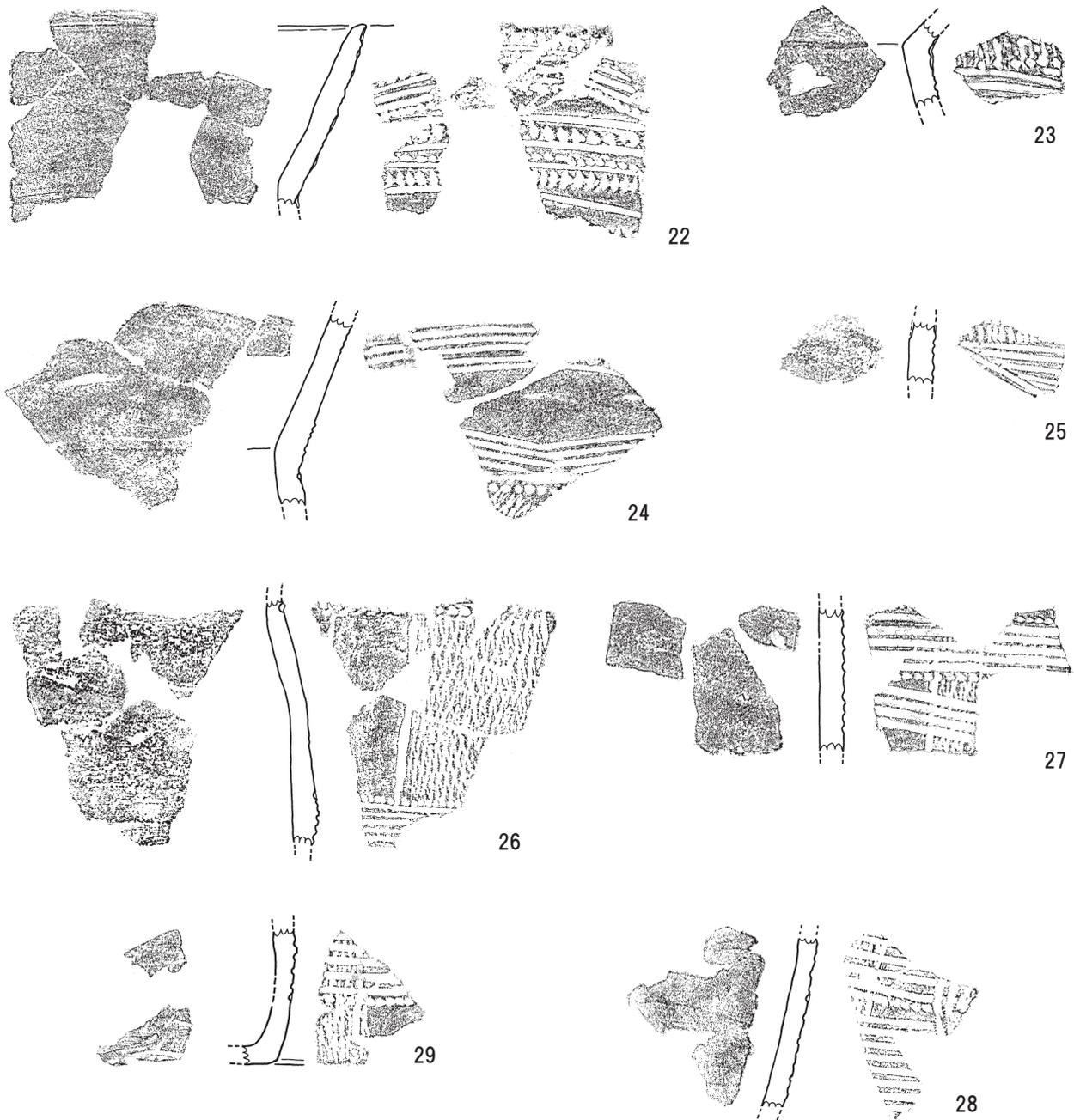
頸部が屈曲するラッパ状の器形を呈する一群である。

11 は二重口縁を呈し、刺突と沈線による施文を施す。口唇部にはキザミを有し、口縁上部の内面は丁寧なナデ調整を施す。12・13 は外面に沈線を施し、その上下に刺突を持つ。内面は丁寧なヨコナデを施し、口唇部は平らにナデ調整を施す。14 は外面に沈線を施し、その上下に竹状工具で刺突を施す。口縁端部は



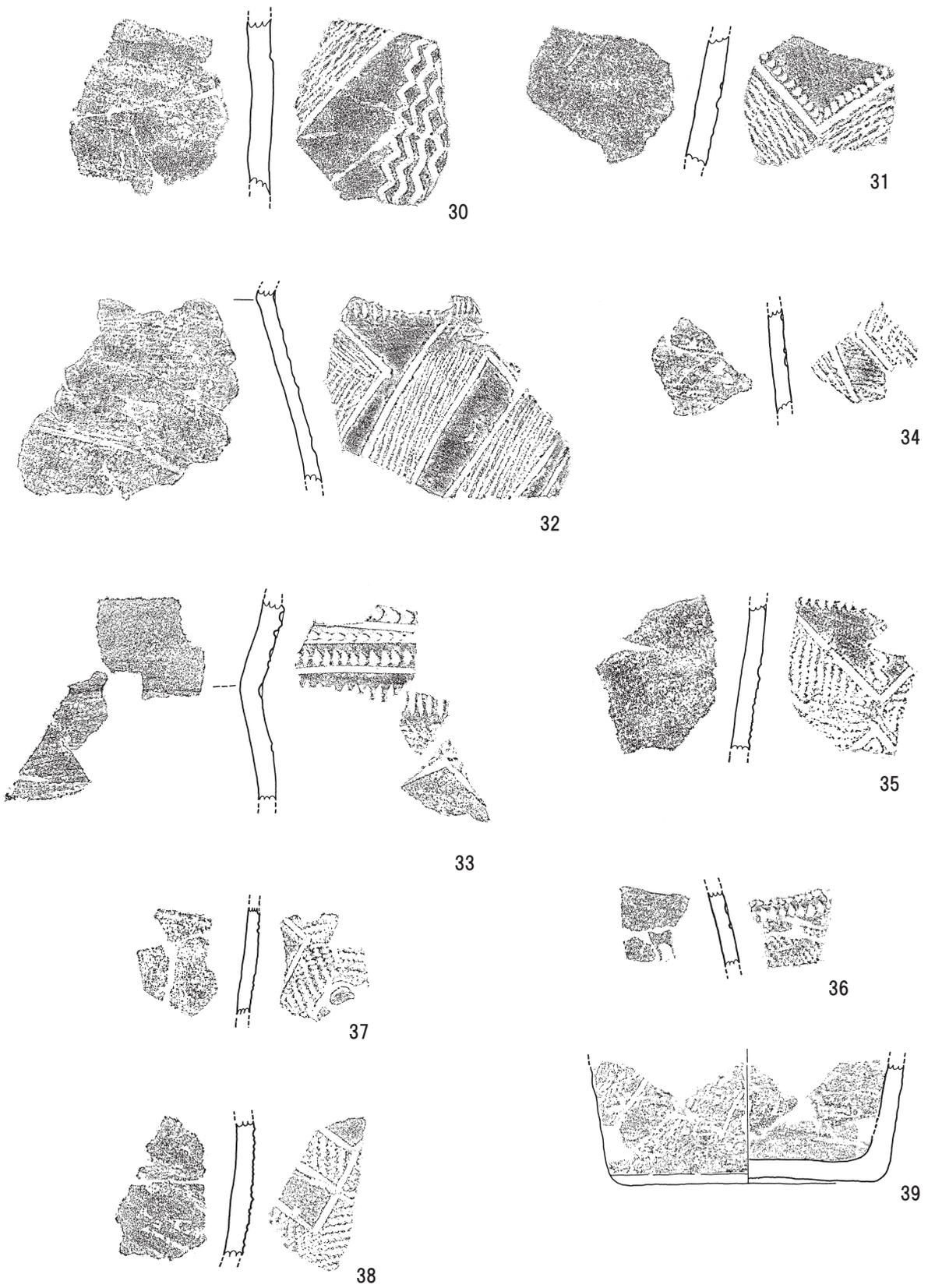
第 23 図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図② (S=1/3)

ヘラ状工具で刺突する。15は沈線を施した後、竹状工具で刺突を施している。口縁上部付近に穿孔を持つ。16は沈線と刺突を持ち、内面は丁寧なナデ調整を施す。外面が黒変する。17は下半に貝殻刺突文を巡らせる。18は口縁端部に丁寧なナデを施す。外面は口縁端部にキザミを施し、その下に沈線と刺突を施す。19は胴部片で、縦位に撚糸文を施し、その上から貝殻条痕を施す。20は縦位に撚糸文を施し、その後沈線と刺突を施す。21は底部付近の破片で、縦位の撚糸文後、斜位の貝殻条痕文を施文する。22は沈線を施し、その間を竹状工具とヘラ状工具による刺突文を交互に巡らせる。外面に少量のススが付着する。内面は丁寧なヨコナデを施す。23は頸部片で、屈曲部にヘラ状工具による刺突を持ち、沈線と刺突で胴部に施文する。24

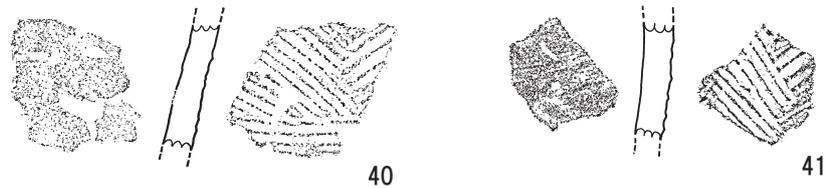


第24図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図③ (S=1/3)

も頸部片で、頸部から上部は沈線により施文する。下部は竹状工具による刺突文と撚糸文を有する。25はへら状工具による刺突と沈線を有する。26は胴部片で、縦位の撚糸文を沈線で区画し、横位に竹状工具での刺突と沈線を施す。27は縦位の撚糸文を沈線で区画し、横位と斜位に沈線を施す。28は胴部片で沈線で区画した撚糸文の上から沈線と刺突全面に施す。29は底部片で、縦位の撚糸文・沈線と横位の沈線・刺突文を持つ。内面は黒変している。30は沈線区画内の撚糸文と、波状沈線を有する。31は撚糸文を沈線で区画し、区画の外側に棒状工具で施文する。32は頸～胴部片で、頸部にへら状工具で刺突を施し、胴部は沈線区画内に撚糸文を施す。33も頸～胴部片で、頸部から上部は沈線と、へら状及び竹状工具での刺突文を施す。下位部から下部は沈線と縄文を有する。34は胴部片で、沈線区画と撚糸文を持つ。35は胴部片で縦位に波状沈線を施し、その後沈線区画内に縄文を施文する。36は刺突を横方向に施文し、その下部に沈線と縄文を有する。37・38は胴部片で沈線区画と縄文を有する。39は底部片で沈線と縄文で施文する。底径は132mmである。



第 25 図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図④ (S=1/3)



第 26 図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図⑤ (S=1/3)

その他の土器 (40・41)

40・41 は条痕文を持つ土器である。斜め上方向から下方向に条痕を施した後、逆斜め上からも条痕を施す。

2 出土石器について

打製石鏃 (42～60)

42～53 は 1 類で、抉りが深く、特徴的な脚部を有する一群である。42～44、49、52 はチャート製である。45 は安山岩製、46～48、50、51 は黒曜石製である。

54 は 2 類で、胴下半部に最大幅を持ち、基部の幅が狭くなる平面形を持つ。黒曜石製である。

55 は 3 群で平面形が五角形を呈する。チャート製である。

56、57 は 4 群で基部に一定の抉りを持つ一群である。黒曜石製である。

58 は 5 類で、剥片の面を残す一群である。

59、60 は分類不可の石鏃である。

石鏃未製品 (61～66)

61 は黒曜石製、62～66 はチャート製の石鏃未製品である。

スクレイパー (67)

67 はチャート製でスクレイパーである。

二次加工剥片 (68～70)

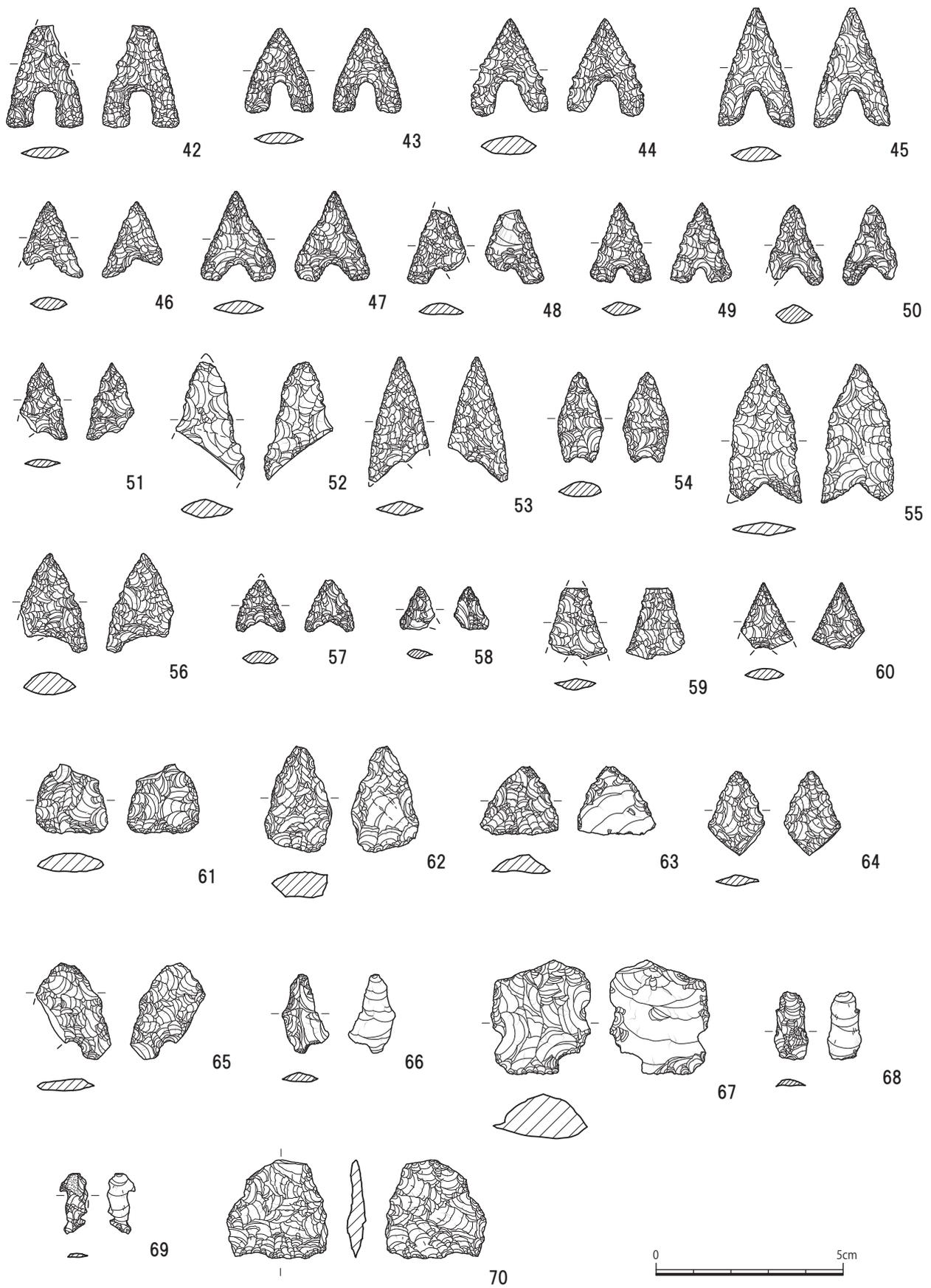
68、69 は黒曜石製、70 はチャート製の二次加工剥片である。68 は細石刃の可能性はある。

磨石 (71～77)

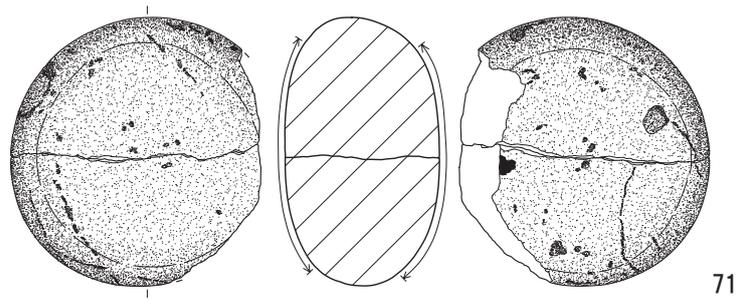
71、73 は霧島山系花崗岩製、72、74～77 は砂岩製である。73 は敲打痕を持つ。

凹み石 (78)

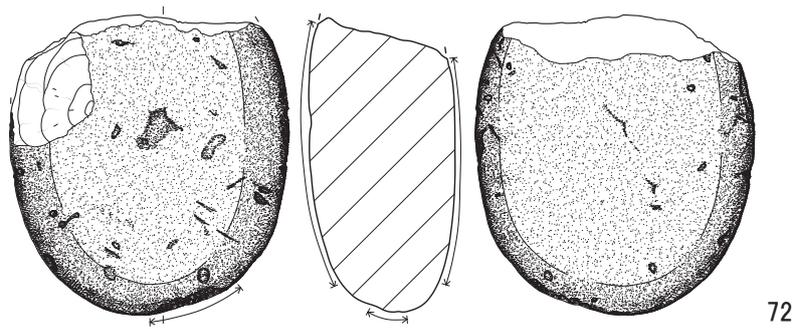
78 は砂岩製で、中心部に凹みを持つ。



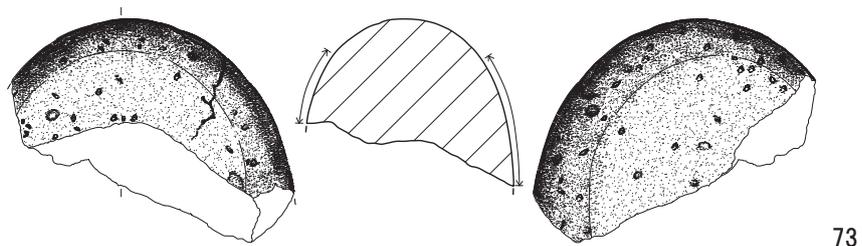
第 27 図 アカホヤ火山灰下位出土石器実測図① (S=2/3)



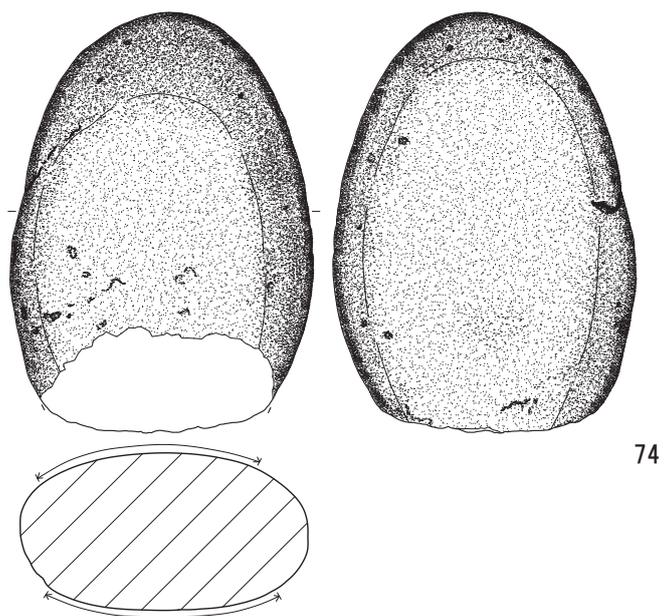
71



72



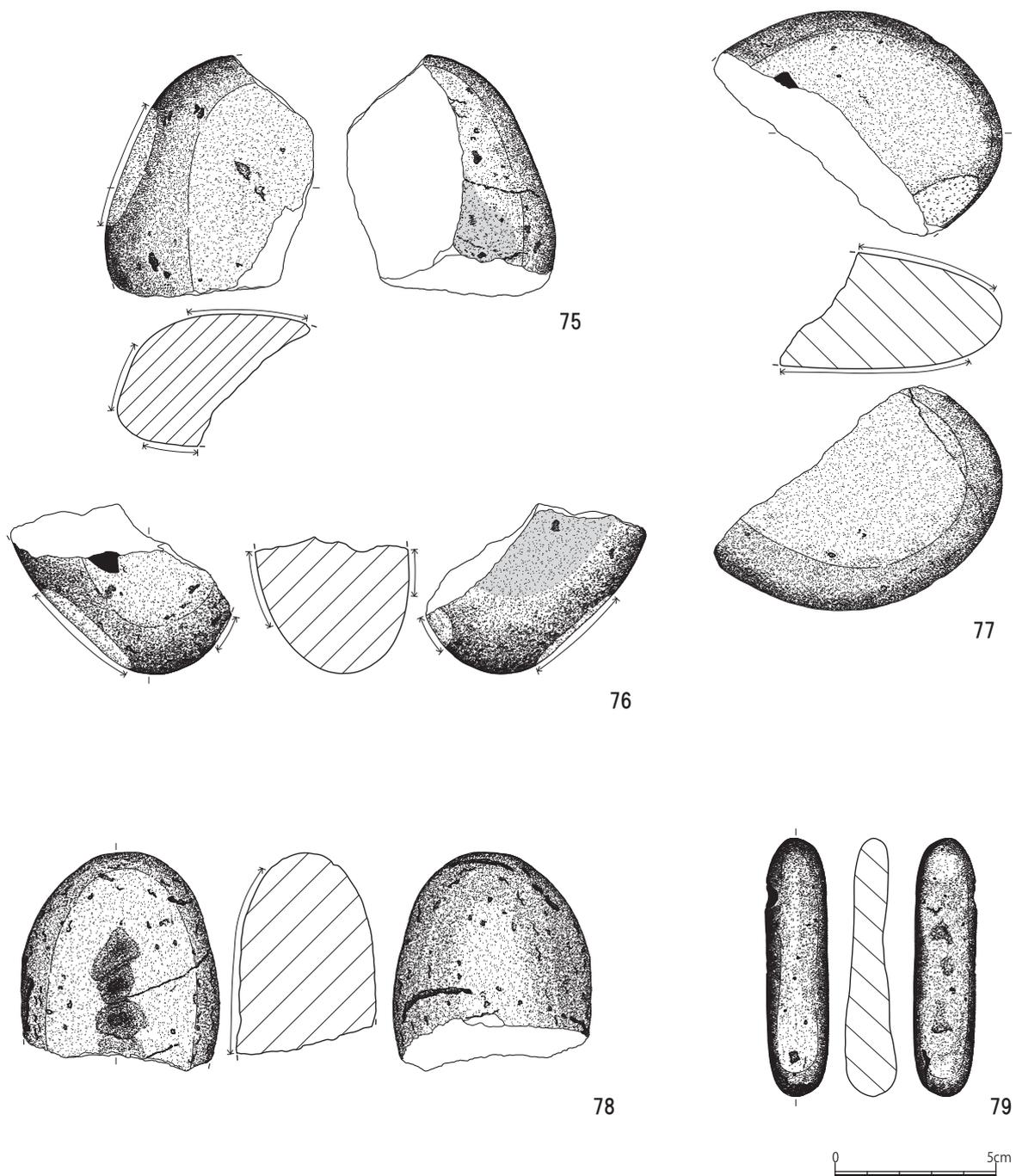
73



74



第 28 図 アカホヤ火山灰下位出土石器実測図② (S=1/2)



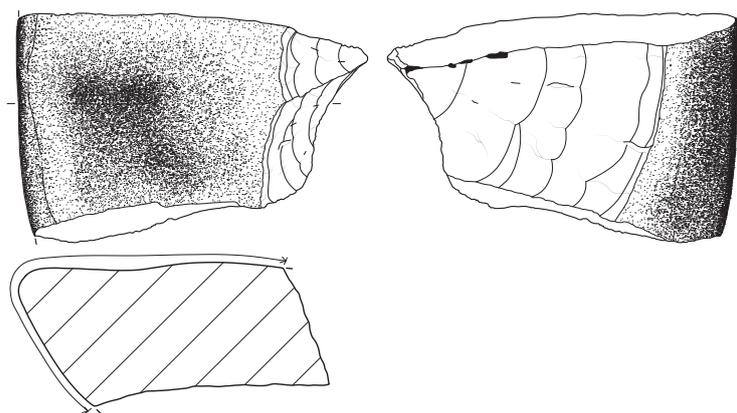
第 29 図 アカホヤ火山灰下位出土石器実測図③ (S=1/2)

敲石 (79)

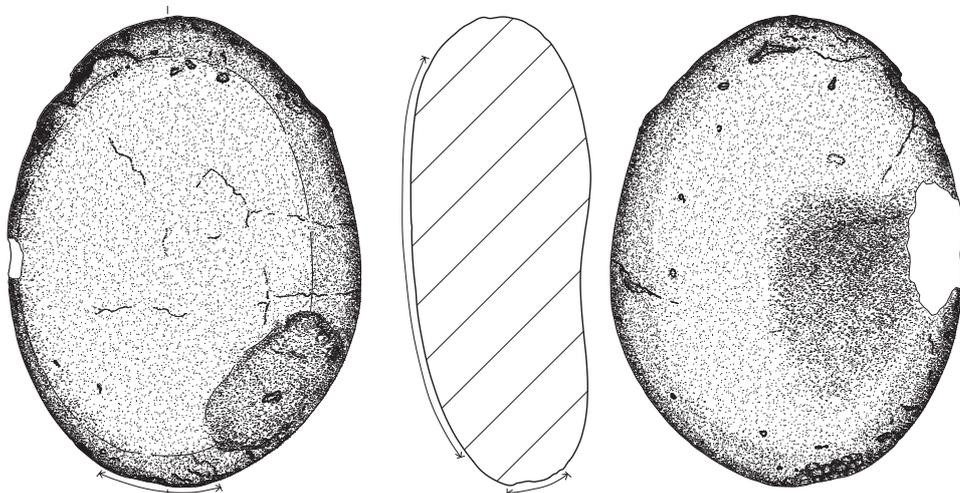
砂岩製の敲石で先端部に敲打痕を持つ。

石皿 (80 ~ 82)

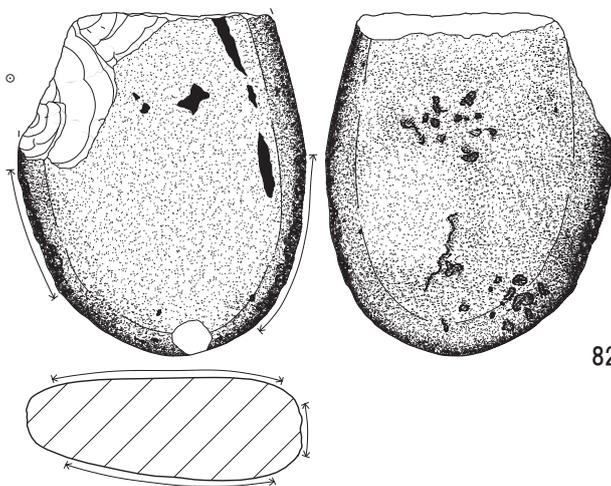
79 ~ 81 は砂岩製の石皿で、80、81 は敲打痕を持つ。



80



81



82



第 30 図 アカホヤ火山灰下位出土石器実測図④ (S=1/2)

第3表 アカホヤ火山灰下位包含層出土石器観察表

掲載番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	委託 No.
42	-	石鏃	チャート	2.75	2.05	0.35	1.5		1-19
43	-	石鏃	チャート	2.25	1.8	0.3	1		1-21
44	-	石鏃	チャート	2.65	2.05	0.5	1.6		1-24
45	-	石鏃	安山岩	3.2	2.05	0.4	1.8		1-38
46	-	石鏃	姫島産黒曜石	2.05	1.6	0.4	0.7		1-35
47	-	石鏃	針尾産黒曜石?	2.4	2	0.35	1.3		1-26
48	-	石鏃	黒曜石	2	1.55	0.35	0.9		1-16
49	-	石鏃	チャート	2.15	1.65	0.4	1		1-33
50	-	石鏃	針尾産黒曜石?	2.15	1.45	0.55	1		1-32
51	-	石鏃	黒曜石	2.05	1.25	0.25	0.4		1-36
52	-	石鏃	チャート	3.2	1.85	0.5	1.7		1-23
53	-	石鏃	チャート	3.35	1.6	0.45	1.7		2-1
54	-	石鏃	黒曜石	2.4	1.2	0.4	1		1-22
55	-	石鏃	チャート	3.75	1.95	0.4	2.3		1-31
56	-	石鏃	黒曜石	2.7	1.8	0.7	2.3		1-34
57	サブトレ内南側	石鏃	黒曜石	1.4	1.3	0.35	0.4		1-7
58	-	石鏃	黒曜石	1.15	0.95	0.3	0.2		1-17
59	-	石鏃	チャート	1.9	1.55	0.35	0.9		1-18
60	-	石鏃	針尾産黒曜石?	1.8	1.4	0.3	0.6		1-27
61	-	石鏃未製品	黒曜石	1.85	1.9	0.6	1.9		1-29
62	-	石鏃未製品	チャート	2.85	1.8	0.75	3.5		2-3
63	-	石鏃未製品	チャート	1.85	2.1	0.5	1.4		1-20
64	-	石鏃未製品	チャート	2.25	1.5	0.35	1		2-2
65	-	石鏃未製品	チャート	2.6	2	0.5	1.9		1-30
66	-	石鏃未製品	チャート	2.1	1.25	0.25	0.5		1-28
67	-	スクレーパー	チャート	3.1	2.65	1.3	10.6		1-25
68	-	細石刃?	黒曜石	1.85	0.9	0.35	0.2		1-37
69	-	二次加工剥片	黒曜石	1.6	0.75	0.2	0.1		2-5
70	-	二次加工剥片	チャート	2.65	2.7	0.55	3.4		2-4
71	-	磨石	霧島山系花崗岩	7.15	6.6	4.1	280.3		1-39
72	-	磨石	砂岩	8	7.35	3.8	331.2	敲打痕あり	1-12
73	-	磨石	霧島山系花崗岩	5.95	7.45	5.5	230.9		1-11
74	-	磨石	砂岩	11.2	8	4.2	513.9		1-10
75	-	磨石	砂岩	7.55	6.5	4.7	197.1	76と接合	2-7
76	-	磨石	砂岩	5.35	6.85	5.00	151.2	221と接合、被熱痕あり	2-6
77	-	磨石	砂岩	8.95	7.05	3.7	222.5	75と接合	2-8
78	-	凹み石	砂岩	6.85	6.15	4.35	225.3	表面に凹みあり、被熱痕あり	2-9
79	-	敲石	砂岩	8.1	1.95	1.6	32.3		1-13
80	-	石皿	砂岩	5.35	6.85	5	151.2		1-6
81	-	石皿	砂岩	12.5	9.3	4.9	742.2	敲打痕あり、全体的に被熱痕著しい	1-14
82	-	石皿	砂岩	9.15	7.6	2.9	280.6	敲打痕あり	1-15

第3章 アカホヤ火山灰上位の調査

第1節 遺物、遺構の分布状況

基本層序Ⅲ～Ⅴ層がアカホヤ火山灰上での遺物包含層であるが、殆どが造成による削平で残存しておらず、残存していた部分も耕作時のトレンチャーによる攪乱を受けている状態であった。そのためⅢ～Ⅴ層については重機で慎重に除去し、遺物数点を採集した。包含層除去後、基本層序Ⅵ層上面にて遺構検出を行った。遺構は土坑3基とピット1基を検出した。ピット1基から刻目突帯を持つ土器が1点出土した。

第2節 遺構について

1 土坑

SC 1

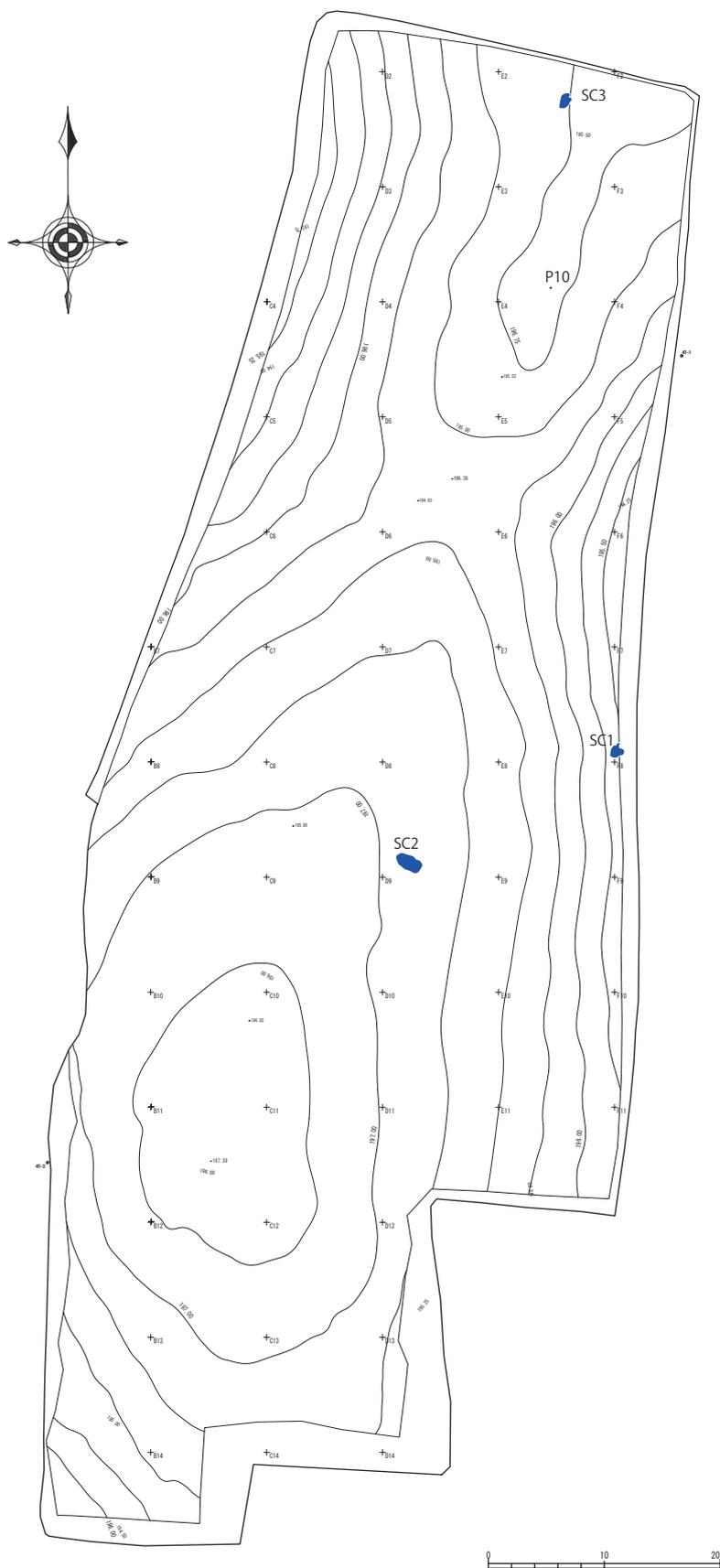
調査区東壁にかかって検出された。1.2m × 1.05m の不定形で、北東側は斜めに落ち込んでいた。遺構南側は攪乱の影響を受けていた。埋土に褐色スコリアを含む層が確認された。

SC 2

規模は2.5m × 1.3mで、平面プランが楕円形の土坑である。埋土中から礫数点出土した。埋土や底面付近の様子から、樹根による攪乱を受けていると考えられる。埋土は1層で、黒褐色粘質土(10YR1/3)で2mm以下のぶい黄褐色軽石を含む。

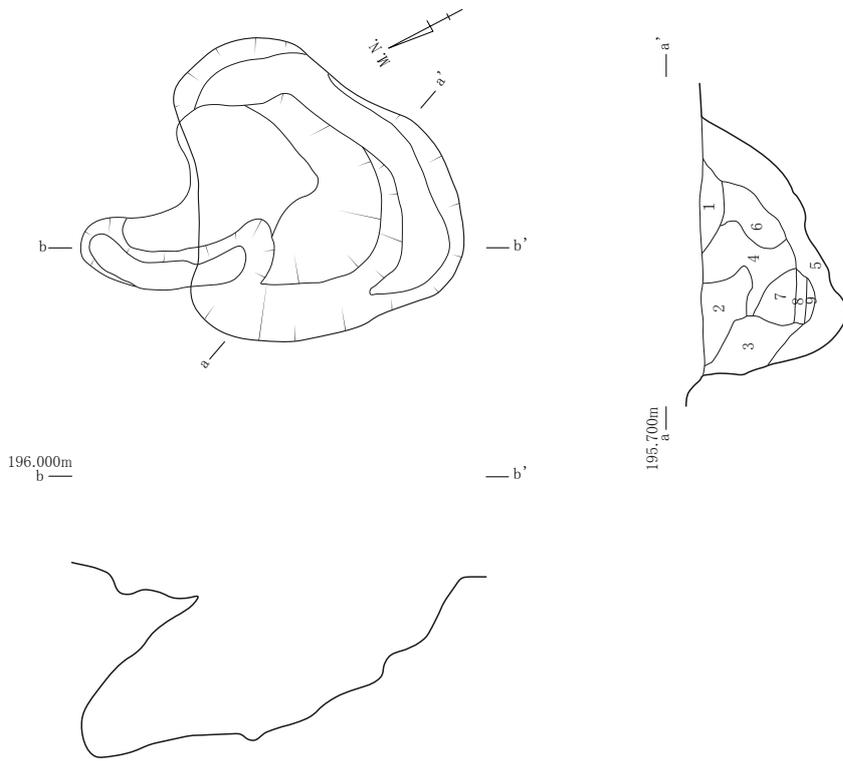
SC 3

幅1.5mの土坑である。東側はトレンチャーによる攪乱を受けており、残存で0.9mを測る。埋土は黒褐色粘質土(10YR1/3)で3mm以下の黄橙色軽石、灰黄褐色火山灰ブロックを含む。



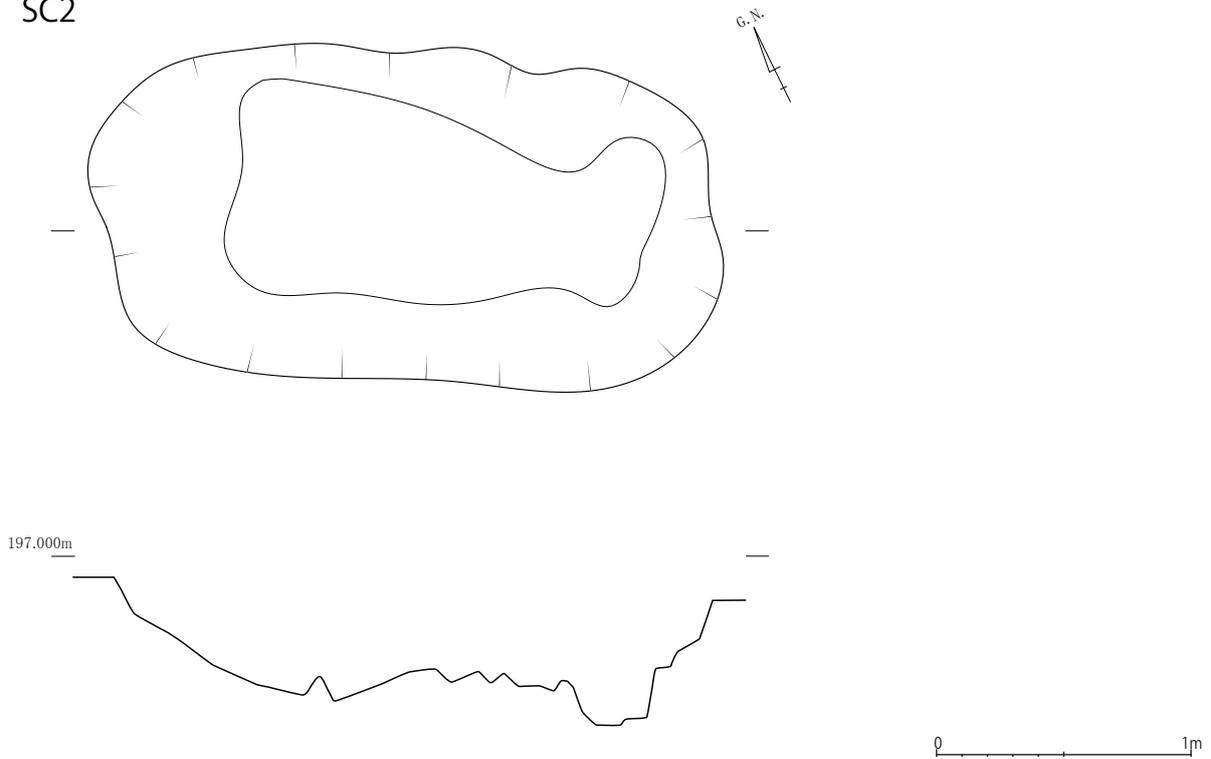
第31図 アカホヤ火山灰上位遺構配置図(S=1/600)

SC1



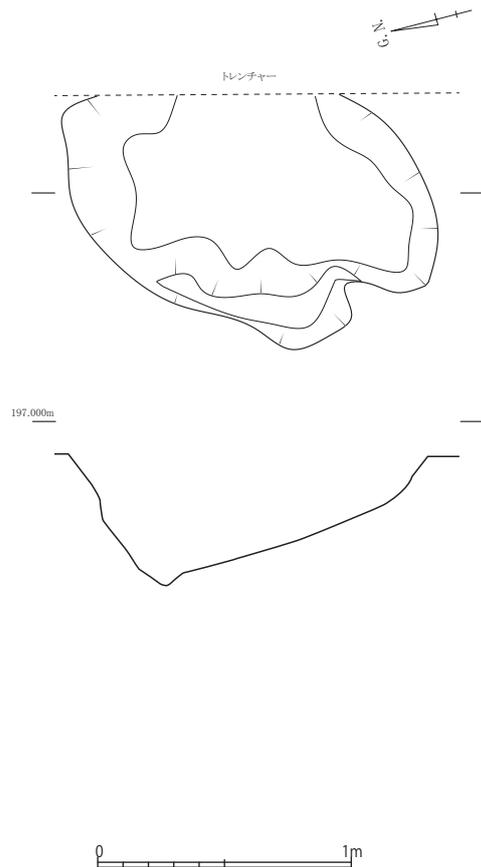
1. 灰褐色シルト質土 (10YR5/2) にぶい黄褐色軽石 (3mm程度) を微量含む。
1mm以下の白色粒を含む。縮まりあり。
2. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 1mm程度の橙色軽石、白色粒を少量含む。
やや縮まりあり。
3. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 灰黄褐色火山灰ブロック (牛のスネ上部) を含む。
やや縮まりあり。
4. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 8mm以下のにぶい黄褐色軽石を多く含む。
1mm以下の白色粒を微量含む。縮まりなし。
5. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 1mm以下の黄褐色軽石を多量に含む。
縮まりなし。
6. 灰黄褐色シルト質土 (10YR5/3) 15mm以下のにぶい黄褐色軽石を含む。
1mm以下の白色粒を微量含む。やや縮まりあり。
7. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 15mm以下のにぶい黄褐色軽石を多量に含む。
縮まりなし。
8. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 15mm以下のにぶい黄褐色軽石を含む。
縮まりなし。
9. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 2mm以下のにぶい黄褐色ボラを含む。
やや縮まりあり。

SC2

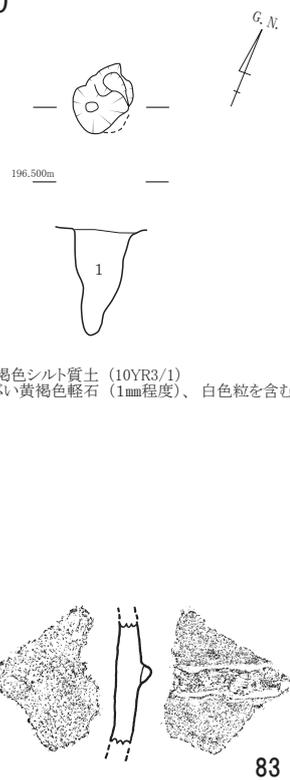


第 32 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図① (S=1/30)

SC3



P10



1. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) にぶい黄褐色軽石 (1mm程度)、白色粒を含む。

第33図 アカホヤ火山灰上位検出SC実測図②及びP実測図(S=1/30)

2 ピット

P10

0.3m × 0.25m のピットである。埋土の中ほどから刻み目突帯付土器が出土した (83)。

第4表 アカホヤ火山灰上位包含層出土土器観察表

掲載番号	器種	部位	出土地点	出土層位	法量			色調		胎土							文様及び調整		備考	実測No.			
					器高(mm)	底径(mm)	口径(mm)	外面	内面	石英	長石	白色鉱物	輝石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色鉱物	磁鉄鉱			赤色鉱物	外面	内面
83	甕	胴部	E3	V	-	-	-	にぶい褐 7.5YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 7/3	○	○						○		○	ナデ	ナデ		38